



防衛大 学校



[学校案内]

School of Liberal Arts and General Education

Department of General Education / Department of Foreign Languages / Department of Physical Education

School of Humanities and Social Sciences

Department of Humanities / Department of Public Policy / Department of International Relations

Schools of Science and Engineering

Department of Applied Physics / Department of Applied Chemistry / Department of Earth and Ocean Sciences
Department of Electrical and Electronic Engineering / Department of Communications Engineering
Department of Computer Science / Department of Materials Science and Engineering
Department of Mechanical Engineering / Department of Mechanical Systems Engineering / Department of Aerospace Engineering /
Department of Civil and Environmental Engineering

School of Defense Sciences

Department of National Defense Studies / Department of Strategic Studies
Department of Leadership and Military History



防衛大学校受験の勧め

防衛大学校は、日本の防衛・安全保障と日本に住む人々の安全・安心社会の確保に強い関心があり、また将来、重要な組織の上に立つ社会のリーダーになりたいと考えている受験生の皆さんに開かれた大学です。

防衛大学校は、自衛隊のリーダー（幹部自衛官）を育成する日本で唯一の大学教育機関です。本校は、防衛省の機関ですので「大学校」となっていますが、一般大学と同じ4年制の教育を実施し、卒業時には学士の学位を授与しています。本校はいわば「士官学校」ですが、この点から一般大学と何ら変わるところはありません。

防衛大学校は毎年約480名を基準に学生を採用しますが、その内訳は、人文社会科学系が約105名、理工学系が約375名です。防衛大学校の教官数は約330名で、これは学生5.8人に1人の割合となり、全国で最も望ましい規模で少人数教育が行われていることとなります。人文社会科学系には3学科、理工学系には11学科あり、学生は多様な14分野のうちから1学科を専攻します。学生の専攻分野は2学年に進むときに決まりますが、1学年生は教養教育科目を重点的に学びます。

防衛大学校は、将来幹部自衛官となることから、リーダーとしての資質を育成することに重点を置きます。そのために、本校では制服教官（幹部自衛官）による防衛学の授業があります。戦史や国防論、戦略論など、一般大学には見られない、本校ならではの教育科目です。また、学生舎（寮）生活、部活動である校友会などを通じて、リーダーとしての資質を育み、同時にタテとヨコの人間関係に習熟していくこととなります。

防衛大学校は、国際化にも力を入れています。4年制の大学教育を受けながら、英語力を身につけ、学生の約10パーセントが海外短期留学することができます。キャンパスには留学生が多数おり、また、海外の士官学校生の訪問も頻繁にあることから、国際的な雰囲気に満ちあふれています。そして毎年、国際的視野を広げる目的で、学生たちの自主的な運営により国際士官候補生会議が開催されています。

以上のように、防衛大学校は、教育の目的は遠大かつ明確で、学力のみならず指導力、人間力、体力、そして国際性を同時に身につけることのできるすばらしい学びの場なのです。

結びに、防衛大学校は、横須賀の三浦半島の先端に位置し、東京湾の望み、富士山を仰ぐ風光明媚な自然環境に恵まれた空間にあります。防衛大学校は、若人が4年間の大学生活を過ごすのに最適な大学であることを、確信をもってお伝えします。

全教職員を挙げて、明るく情熱的で積極性あふれる皆さんの積極的な受験をお待ちしています。

防衛大学校長 こく ぶん りょう せい
國 分 良 成

見えない自分が、見えてくる。

■あなたは「自分」が見えていますか？

現代人の多くはそんなこと考えずに過ごしています。考えない方が、流される方が楽に生きていけるからです。でも、本当にそれでいいのですか？「このままで良いのだろうか」と思ったことはありませんか？

防衛大学校では、防衛学や訓練、そして8人部屋での学生生活など、一般大学にはない四年間が待っています。あえて言いましょう。キツイです。流されて生きていけば決して経験することのできないリアルな厳しさ。その中に身を置くことによって、今まで漠然として捉えることのできなかつた自分自身のあるべき姿が発見できるのもまた事実なのです。

「このままじゃいけない」「今の自分を変えたい」…
そんな熱いハートを持った人たちを、防衛大学校は待っています。

意志ある学びはすべて、 誇りあるリーダーとしての活躍につながる。

将来、陸上・海上・航空各自衛隊の幹部自衛官となる人材を育成する防衛省の教育機関、防衛大学校。
「広い視野を開き、科学的な思考力を養い、豊かな人間性を養うとともに、幹部自衛官にふさわしい精神、体力基盤及び生活習慣を育成すること」を教育目標とし、充実した学習環境であなたの成長を支えます。
目標に向かい強い意志をもって学ぶことは、国防はもとより、災害派遣や国際平和協力業務など、誇れる将来の活躍へとつながるのです。

C O N T E N T S

学 校 長 挨拶	1
目 次	3
防 衛 大 学 校 M A P	4
施 設	6
教 育 課 程	8

共 通 科 目	
教 養 教 育	9
外 国 語	11
体 育 学	13
防 衛 学	14
専 門 基 礎	16

人 文 ・ 社 会 科 学 専 攻	
人 間 文 化 学 科	18
公 共 政 策 学 科	20
国 際 関 係 学 科	22

理 工 学 専 攻	
応 用 物 理 学 科	24
応 用 化 学 科	26
地 球 海 洋 学 科	28
電 気 電 子 工 学 科	30
通 信 工 学 科	32
情 報 工 学 科	34
機 能 材 料 工 学 科	36
機 械 工 学 科	38
機 械 シ ス テ ム 工 学 科	40
航 空 宇 宙 工 学 科	42
建 設 環 境 工 学 科	44

新 教 育 プ ロ グ ラ ム	
新 しい 教 育 プ ロ グ ラ ム の 誕 生	46

訓 練 課 程	48
年 間 行 事	50
国 際 文 流	52
学 生 舎 生 活	54
学 生 隊	55
校 友 会 活 動	56
学 生 の 一 日	57
卒 業 後 の 進 路	58
研 究 科	59
受 験 生 の た め の 防 大 相 談 室	60
防 大 の 沿 革	62

表紙デザインについて

若草色の大理石は防大生の若々しさ、強い意志を表現するとともに、ミリタリーカラーの一步手前である、という意味も込められています。
中央に配置された緑の大地、輝く海、澄みきった空は、防大生が将来進む道である陸上、海上、航空自衛隊を表現しています。

- 1 正門
- 2 本部庁舎
- 3 記念講堂
- 4 総合情報図書館
- 5 人文科学館
- 6 給水塔
- 7 理工学1号館
- 8 理工学2号館
- 9 理工学3号館
- 10 理工学4号館
- 11 理工学5号館
- 12 土木・化学実験棟
- 13 社会科学館
- 14 理工学総合実験棟
- 15 防衛学館
- 16 総合体育館
- 17 球技体育館
- 18 武道場
- 19 訓練講堂
- 20 航空機格納庫
- 21 競技プール
- 22 陸上競技場
- 23 ラグビー場
- 24 アメリカンフットボール場
- 25 サッカー場
- 26 ハンドボール場
- 27 テニスコート
- 28 野球場
- 29 第1学生舎
- 30 第2学生舎
- 31 第3学生舎
- 32 第4学生舎
- 33 学生教育1号棟
- 34 学生教育2号棟
- 35 学生教育3号棟
- 36 弓道場
- 37 学生食堂
- 38 学生会館
- 39 医務室
- 40 覆道射場
- 41 研究科学生舎
- 42 隊員宿舎
- 43 走水海上訓練場
- 44 資料館
- 45 新学生食堂（予定地）
- 46 学生浴場（仮設）

豊かな自然に囲まれ、
充実した施設・環境の中



で自分自身を見つめる。



■豊かな自然に囲まれた環境と、充実した施設の中で自分だけの「やりたいこと」を見つける。

施設

防衛大学の敷地は広さ約650,000m²、東京ドーム約14個分に相当します。緑に囲まれた教場や学生舎、研究棟、グラウンドなどが整備され、学生会館、学生舎などからは眼下に東京湾、晴れた日には横浜ベイブリッジや房総半島、さらには霊峰富士を眺めることもできます。



本部庁舎 ■ 正門をくぐると、正面には本部庁舎が見えます。



理工学館 ■ 1～5号館まであり、それぞれに教場、実験室、実習室などがあって、理工系の教育・研究が行われます。



物理学生実験室 (1号館)



電算機第3講義室 (3号館)



社会科学館 ■ 社会科学系の教育・研究が行われます。



防衛学館 ■ 防衛大学校独自のカリキュラム、防衛学の教育・研究が行われます。



総合体育館 ■ 温水プールやトレーニング室もあり、体育の授業や校友会(クラブ)活動が行われます。



球技体育館 ■ バレーボール、バスケットボールなど、室内での球技が行われます。バレーボール2試合とバスケットボール1試合が同時に行える広さです。



武道場 ■ 柔道、剣道、空手道、合気道などの武道が行われます。



資料館 ■ 教育理念、学校設立背景、卒業後の進路などを展示し、学生教育及び学校広報に活用することを目的としています。

競技施設 ■陸上競技場では各種陸上競技種目が実施でき、トラック内側はフィールドホッケー場が入る広さ。また、ラグビー場、アメリカンフットボール場、サッカー場、硬式野球場、テニスコートはそれぞれ独立しており、のびのびと授業や校友会（クラブ）活動が行なえます。



陸上競技場



ラグビー場



硬式野球場



アメリカンフットボール場



サッカー場



テニスコート



学生舎 ■第1～第4学生舎です。



覆道射場 ■実弾射撃訓練が行われます。



学生会館 ■貯金などの福利厚生業務を行う厚生課があり、1FにはコンビニやATMもあります。



土木・化学実験棟 ■化学実験室や建設環境工学実験室があります。



理工学実験棟 ■A～E棟まであり、大型の実験装置や実習工場などがあります。



人文科学館 ■LL 教場などがあり、外国語や人文科学系の教育・研究が行われます。



学生食堂 ■全学生を一度に収容・喫食することができます。



走水海上訓練場 ■通称「ポンド」。カッターや機動艇訓練などが行われます。



医務室 ■ケガや病気の治療をはじめ、学生の健康管理を行います。



総合情報図書館 ■現在所有している図書は約63万冊です。また、本校の特色を生かし、軍事防衛分野での図書・雑誌の充実を図っています。

■ 個性的なカリキュラムで、新たな自分自身を発見する。

教育課程

防衛大学の教育課程は、文部科学省の定める大学設置基準に準拠し、教養教育・外国語・体育・専門基礎の科目と専門科目(人文・社会科学専攻及び理工学専攻)を一般大学と同じように教育するとともに、本校独自の防衛学(防衛に関する学術分野)の教育を行います。その他にも国内外の著名人による全校的な課外講演や、内外の教授による学科単位の特別講義、授業の一環としての施設見学などがあります。本科卒業生には、他の一般大学と同様に学位(学士)が授与されます。

注：平成3年度より、(独)大学評価・学位授与機構による外部審査を経て、学位(学士)が授与されます。

【取得できる学位】

- 人文・社会科学専攻 学士(人文科学)、学士(社会科学)のいずれか
- 理工学専攻 学士(理学)、学士(工学)のいずれか



■ 第1学年

人文・社会科学専攻は専門基礎のすべて、理工学専攻は専門基礎の一部を学びます。また教養教育、外国語、体育及び防衛学の一部を履修します。

第2学年進級時に人文・社会科学専攻は3、理工学専攻は11の専門学科に区分され、陸上・海上・航空各要員の配分が決定されます。また、理工学専攻は第2学年で残りの専門基礎を履修します。

※学科区分は本人の希望と成績によって、要員配分は本人の希望と成績、適性によって決定されます。

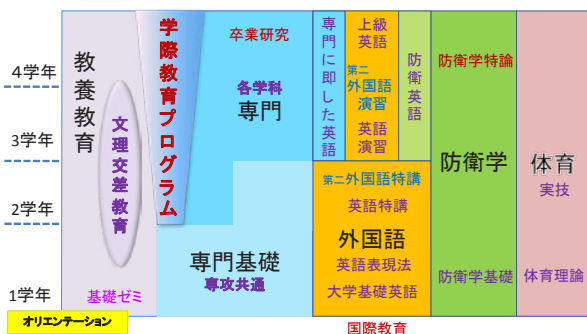
■ 第2～4学年

教養教育、外国語、体育、防衛学、専門科目を履修します。

■ 第4学年

卒業研究論文を作成します。

【本科教育体系図】



進級及び卒業に必要な単位数

人文・社会科学専攻						
必要単位数	2学年進級時	3学年進級時	4学年進級時	卒業時		
	35単位以上	75単位以上	114単位以上	152単位以上		
区別単位数	教養教育		3単位以上	8単位以上	18単位以上	24単位以上
	外国語	英語	6単位以上	12単位以上	12単位以上	12単位以上
		英語以外の外国語				2単位以上
	体育	3単位	4単位	5単位	6単位	
専門基礎	18単位以上		18単位以上			
専門			22単位以上	42単位以上	66単位以上	
防衛学	2単位以上	6単位以上	16単位以上	24単位以上		

理工学専攻						
必要単位数	2学年進級時	3学年進級時	4学年進級時	卒業時		
	35単位以上	75単位以上	114単位以上	152単位以上		
区別単位数	教養教育		3単位以上	8単位以上	18単位以上	24単位以上
	外国語	英語	6単位以上	12単位以上	12単位以上	12単位以上
		英語以外の外国語				2単位以上
	体育	3単位	4単位	5単位	6単位	
専門基礎	19単位以上		30単位以上	30単位以上		
専門			12単位以上	30単位以上	54単位以上	
防衛学	2単位以上	6単位以上	16単位以上	24単位以上		

良き社会人、職業人となるための偏りのない知識。

Department of General Education

教養教育

教養教育では、良識に富んだ社会人・職業人(幹部自衛官)となるための教養を学びます。多様な授業を通じて、柔軟な思考力と豊かな教養をもつバランスのとれた人格形成を目指します。

カリキュラムは、(1)自ら考え、表現する力(基礎的思考力)を養う基礎科目(「基礎ゼミナール」)、(2)バランスのとれた発想をするための他分野科目群(人社専攻学生への「数学」「物理学」「化学」などの理工系教育、理工学専攻学生への「思想と文化」「歴史学」「心理学」「政治学」「経済学」「法学」などの人社系教育)、(3)豊かで高度な教養のための準専門的科目が設置されています。



人文・社会科学専攻			
科目区分	授業科目	単位数	
教養教育 [最低修得単位数24単位]	必修 [修得単位数14単位]	基礎ゼミナール	1
		戦後史と防衛大学校	1
		数学 A	2
		数学 B	2
		近現代史概説	2
		物理学	2
		化学序論	2
	選択必修 [修得単位数4単位以上]	地球と海洋	2
		先端エレクトロニクス入門	2
		コンピュータリテラシー	2
		メカライフ(機械と社会)	2
		飛行機とロケット	2
		土木地理学	2
		地域研究 A	2
選択	地域研究 B	2	
	数学概論 A	2	
	数学概論 B	2	
	電気と磁気	2	
	化学概論	2	

理工学専攻			
科目区分	授業科目	単位数	
教養教育 [最低修得単位数24単位]	必修 [修得単位数8単位]	基礎ゼミナール	1
		戦後史と防衛大学校	1
		憲法	2
		国際法	2
		国際関係論基礎	2
		歴史概論 I	2
	選択必修 [修得単位数12単位]	歴史概論 II	2
		心理学	2
		思想と文化	2
		近現代史概説	2
		日本外交史	2
		政治学	2
選択	経済学	2	
	法	2	
	地域研究 A	2	
	地域研究 B	2	
	航空宇宙工学概論	2	
	航空宇宙セキュリティ論	2	
	光・電波と人間	2	
	土木工学概論	2	

* 授業科目は年度によって変わることがあります。

人文・社会科学専攻、理工学専攻 共通				
科目区分	授業科目	単位数		
教養教育 [最低修得単位数24単位]	独語特講 I	2		
	独語特講 II	2		
	仏語特講 I	2		
	仏語特講 II	2		
	露語特講 I	2		
	露語特講 II	2		
	中国語特講 I	2		
	中国語特講 II	2		
	朝鮮語特講 I	2		
	朝鮮語特講 II	2		
	アラビア語特講 I	2		
	アラビア語特講 II	2		
	ポルトガル語特講 I	2		
	ポルトガル語特講 II	2		
	グローバルコミュニケーション I	1		
	グローバルコミュニケーション II	1		
	西洋史研究	2		
	西洋古代史	2		
	世界地誌学	2		
	人文地理学研究	2		
	西欧文化史	2		
	日本政治史	2		
	日本文学史	2		
	近代史研究	2		
	実験心理学	2		
	カウンセリング	2		
	哲学研究	2		
	中国思想研究	2		
	近代文学	2		
	日本文学講読	2		
漢文学	2			
日本文学史	2			
日本文学と都市文化	2			
組織とリーダーシップ	2			
組織経営論	2			
領域国際法	2			
現代社会と法	2			
戦争と国際法	2			
安全科学総論 (安全科学とリスクマネジメント)	2			
戦争論研究	2			
太平洋戦争への道	2			
健康とスポーツ科学	2			
スポーツのコーチング	2			
身体運動の科学	2			
武道史と武道論考	2			
スポーツ技術論	2			
図形科学	2			
振動と震動の世界	2			
火薬概論	2			
バイオテクノロジー概論	2			
生物化学概論	2			
地球科学入門	2			
センシングと地球環境	2			
日本語研究 I	2			
日本語研究 II	2			

主な科目とその概要

■基礎ゼミナール(共通)

高校までの受動的学習から、大学での能動的学習の方法論と習慣を身につけることが本科目の第一の目的です。担当教官は自分の専門分野に関連した課題や教材を用意し、学生自らが考えて文献・資料の調査・分析を行ったり、野外調査や実験を実行できるよう助言します。その過程で問題発見能力、解決のための計画立案・実行能力を学んだのち、報告書作成能力、発表資料作成能力、討論力などを高めます。クラス規模は10名程度の少人数として、きめ細かい指導を行うことになっています。

■地域研究(共通)

地域研究A・Bとして、12の地域・国・機関を対象とした16科目から構成されており、国内の他大学にない広い範囲をカバーしています。学生諸君は、この中から自由に1つの科目を選択し、選んだ地域の歴史や文化、対外関係、域内構造などを学びます。授業形態は様々ですが、その地域の人々が、どのような情勢を「危ない」と認識するのか、といったことを理解できるようになれば、この授業の目的の一つは達成されたと考えます。

■近現代史概説(共通)

今日の国内国外の諸問題には、半世紀あるいは1世紀以上の経緯を経ているものが少なくありません。本科目では主に19世紀以降の人類の活動を、地球規模の空間軸と歴史的時間軸の視座からとらえ、われわれが生きている時代に生じているさまざまな問題を理解するための基礎的な知識を学びます。

■戦後史と防衛大学校(共通)

戦後期における日本政治外交史の知見を習得するとともに、そのなかでの自衛隊の歴史的位置を確認しつつ、これまでの防衛大学校のあゆみとそこで勉学することの意味について考察することが本科目の目的です。

■安全科学総論(共通選択)

安全神話から安全科学へ。日常に存在する様々な危険を科学的に分析し、非常事態に際しても危機に至らぬようなシステムを構築することが安全科学の目的です。この科目では、様々な危機的状況を構成要素に分解し、科学技術的な改善や、組織運営のソフト面、運用部門の人的資源(要員の知識・技術力、心身の健康)等の研究の在り方を学び、高学年で展開される安全科学プログラムの出発点に立つことができます。人的要素までが対象となっているのは、非常事に際し、人を含めた組織やシステムが確実に機能するためには、機材面だけでなく、適切な状況判断を行えるような労働環境も必要となるからです。

■自然科学実験(理工専攻学生対象)

人文・社会科学専攻学生であっても卒業後、最先端の科学技術が投入された機器の運用をしなければなりません。その際臆することなく対処できるよう、基礎的な理化学器材の使用に関する知識及び技術を学びます。また、実体験によりデータの信頼性を評価する習慣を身につけ、データに基づいた自然科学分野の報告書作成方法を習得することも重要な課題となります。授業では実験のテーマの背景や測定原理等についての説明を行った後、実験に入ります。

■国際関係論基礎(理工学専攻学生対象)

近年グローバル化の進展により、理工学専攻学生であっても卒業後は国内外を問わず、様々な国の人と仕事をする機会が格段に増え、国際的視野を持つことが必要不可欠となってきています。この科目では現代の国際政治の舞台で起きている現象を理解する上で必要な基本的な知識と分析手法の理念や概念について学びます。

世界の思想・文化を学び、グローバル化即応能力を身につける。

Department of Foreign Languages

外国語

国際社会で活躍するために英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・朝鮮語・アラビア語及びポルトガル語の教育を行います。

英語は必須で外国人教官による授業やe-learningも取り入れて大学教育における基礎力としてだけでなく、PKO等海外で活動するのに不可欠な実際に役立つ英語運用能力を養成します。

毎年1回、全学でTOEICを受験し、コミュニケーションのための英語能力を測定します。

その他の外国語(第2外国語)についてはいずれか1つを選択して1~2年間学習します。

主な科目とその概要

■ 英語教育

●1学年から4学年を通じた徹底した英語教育

防衛大学校における語学教育は、英語については4年間を通じて学習し、英語圏に関する幅広い教養とともに実用的な英語運用能力が身につくようなプログラムになっています。特に、1・2学年では日本人及び外国人英語教官による一人一人に目の行き届いたきめ細かい指導を受け、英語の四技能及び基礎的学力を身につけた上で、3学年以降においては、より実用的な観点から、専門教育に即した専門英語、安全保障や防衛学に関わる専門英語などの発展的な科目を学び、卒業後世界各地へ飛翔し英語を用いて活躍する備えをします。

また、全学生が毎年 TOEIC を受験します。各学年毎に基準点が定められており、基準点に達しない学生は、再試験を受けたり、教養科目で開講するグローバル・コミュニケーション英語を履修することが義務付けられますので、自己研鑽をして卒業時まで一定以上のスコアをとることが必要です。

● e-learning を用いた効率的な教育

e-learningとはパソコンや学内のネットワークを利用して行う学習システムのことです。英語の自律学習を支援するツールを使用し、学生が自分の英語能力に応じたレベルの勉強を、学生舎や電算機構義室のパソコンを使って自分に合ったスピードで効果的に学習することができます。マルチメディア機能を利用し、授業以外の時間に自主的に英語の読解力・聴解力を強化していくことを目指しています。

●ネイティブスピーカーによる授業の取り入れ

英語で発信できる能力を実践的に磨く演習の場の一つとして、1学年及び2学年において週一回、ネイティブスピーカーによる授業を設けています。授業では、身のまわりの様々なテーマが取り上げられ、ペアワーク、スピーチ、プレゼンテーション等のアクティビティを通して、英語運用能力を高めていきます。これら実践的な演習を通して身につけた力は、海外からの訪問学生のエスコート、海外士官学校への派遣やICC(国際士官候補生会議)等の機会で見聞されています。



科目区分	授 業 科 目	単 位 数
必修 [修得単位数10単位]	大 学 英 語 基 礎	2
	大 学 英 語 読 解	2
	英 語 表 現 法 I	2
	英 語 特 講 I	2
	英 語 特 講 II	2
	英 語 表 現 法 II	2
外国語 [最低修得単位数2単位]	独 語	2
	仏 語	2
	露 語	2
	中 国 語	2
	朝 鮮 語	2
	ア ラ ビ ア 語	2
	ポ ル ト ガ ル 語	2
	日 本 語	2
選 択 [最低修得単位数14単位]	英 語 演 習	2
	独 語 演 習	2
	仏 語 演 習	2
	露 語 演 習	2
	中 国 語 演 習	2
	朝 鮮 語 演 習	2
	ア ラ ビ ア 語 演 習	2
ポ ル ト ガ ル 語 演 習	2	
時 事 英 語	2	
ス ピ ー チ & デ ィ ベ ー ト	2	

※ 授業科目は年度によって変わることがあります。

主な科目とその概要

■第二外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・朝鮮語・アラビア語・ポルトガル語）

英語以外の語学に関する自衛隊のニーズにも応えるため、1学年から特定の第2外国語を選択必修科目として、2学年では選択科目として学びます。3学年になると、選抜試験を経て、仏、独、中国、韓国等の非英語圏の士官学校との交流に派遣される機会があり、また、将来、海外における諸活動に参加する機会もあることから、3・4学年を通じて、希望する学生は引き続き第2外国語を履修できるシステムとなっています。

学生は、ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・朝鮮語・アラビア語・ポルトガル語の中から一科目を選び、「読む」「書く」「聞く」「話す」のバランスのとれた基礎学力を養います。将来、英語圏以外の場において活躍するための、語学力の基礎を培うことが目標です。他大学では学ぶ機会の少ない、朝鮮語やアラビア語まで用意されているのが防大の特色です。外国語の学習にはさまざまな効用があります。言うまでもなく、その外国語を身につけることができれば、国際舞台に乗り出してゆくための重要な手立てを手に入れたことになるでしょう。しかし、そればかりではありません。第二外国語の学習は、母国語である日本語や初めての外国語である英語の特徴を再発見するための、得がたい手がかりとなるはずで、それらの言語との比較が促されるからです。第二外国語の学習を通じて、是非、日本語や英語の構造の把握にも努めてほしいものです。



行動力を支える体力、技能、社会性を身につける。

Department of Physical Education

体育学

体育は、将来幹部自衛官として求められる強靱な体力、運動技能、円満な社会性および実技指導能力の養成を目的に行われています。そのため、必修科目として理論と実技の両面から4年間にわたる履修が求められます。理論、実技ともに担当科目を専門とする教官により展開されます。

体育理論では、健康で強靱な体力作りとスポーツを実践する上で必要なスポーツ医科学の知識を学びます。

体育実技では、個人、球技、武道種目からそれぞれ2種目、合計6種目を4年間にわたり履修し、運動技能、円満な社会性、実技指導能力を育成します。



体育実技Ⅰ：マシンを使ってのフィジカルトレーニング。強靱な肉体をつくるために基礎体力を養う。



体力向上パスウェイ

防衛大学校における体力養成は、体力向上パスウェイにもとづき行われます。入学時そして毎年秋に実施される体力測定を通じて、目標到達を目指すと共に自らの体力を正しく認識します。学生各自の体力に対する認識に応えるべく、体力養成プログラムは、様々な場面で提供されます。体育理論と体育実技では、基礎的運動能力を向上させるとともに基礎体力向上を意図した科学トレーニングの理論と方法を習得することができます。訓練では、基礎体力の底上げと自衛官として求められる専門的な体力の養成を図ることができます。また、学生の自主性発揮の場である校友会活動では、学生自らが選択した種目を通じて体力を向上させることができます。また、体力が低位な学生には、各種補習プログラムが用意されています。防衛大学校では、様々な機会を通じて、自己の体力を向上させることができます。

▶ 防衛大学校体力測定種目

50m 走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、懸垂(斜懸垂)、1500m 走(1000m 走)
()：女子種目

授業科目とその内容

科目区分	授業科目	単位数	学年	授業内容	
体育 必修 6単位	理論	体育理論	2	1	健康とスポーツ医科学
	実技	体育実技Ⅰ	1	1~3	陸上競技、体操、水泳、トレーニング
		体育実技Ⅱ	1	1~3	バレーボール、バスケットボール、サッカー、ラグビー
		体育実技Ⅲ	1	1~3	柔道、剣道、銃剣道、空手道
		体育実技Ⅳ	1	4	陸上競技、体操、水泳、バレーボール、バスケットボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、銃剣道、空手道、女子体育

■ 共通科目

これぞ防大…戦争と平和を科学する。

the Center for Security and Crisis Management Education/Department of National Defense Studies/Department of Strategic Studies/Department of Leadership and Military History

防衛学



防衛学は、安全保障、防衛、戦争、軍隊、軍人と社会の関係などを軍事の視点から研究する学問です。

また、人文・社会科学、理工系などの幅広い分野の理論的根拠を基礎とし、それらを応用して実践に結びつける総合的・学際的な学問でもあります。

主な科目は、「防衛学基礎」「国防論」「軍事史序論」「戦略」「作戦」「軍事と科学技術」「統率」及び「国際情勢と安全保障」です。他に、少人数のゼミナール形式で安全保障や防衛に関する諸問題を研究する「防衛学特論」も行っています。

これらの科目は、安全保障・危機管理教育センターと三つの教育室(国防論教育室、戦略教育室、統率・戦史教育室)が担当します。

防衛学は、専攻や陸・海・空要員に関わりなく全員が履修する科目です。



主な科目とその概要

1学年

■防衛学基礎I

防衛学履修の意義を含め、防衛学を学ぶに当たって必要な基礎的知識を学びます。

■防衛学基礎II

陸・海・空自衛隊の保有する代表的な装備・システム及び運用方法等を紹介し、それらを通して理工系素養を高めるとともに、防衛学を学ぶに当たっての基礎的知識を学びます。

2学年

■国防論

現代の国防に関する諸問題を理解・考察するための基礎的知識を学びます。

■軍事史序論

軍事史を学ぶ様々な視点から戦争の歴史を考察し、戦争・軍事力の本質及び日本が関わった戦争の特徴を学びます。

3～4学年

■戦 略

主要な戦略論の概要及び戦略の基礎理論などを通じて、戦略の概念及び戦略的なものの見方、考え方を学びます。

■作 戦

陸上・海上・航空における各種の作戦及び統合・連合作戦等の概要と特質、並びに軍事の意義について学びます。

■軍事と科学技術

科学技術の発達が軍事に及ぼしてきた影響、教訓事項などを通じて軍事と科学技術の相互関連性及びその重要性を学びます。

■統 率

目的達成のために集団の力を結集させるリーダーシップを学びます。

■国際情勢と安全保障

新たな脅威や多様な事態への対処に必要な最新の知識を涵養するとともに、分析考察する理論的思考を向上させます。

■選択必修科目

3学年後期から4学年前期にかけて上記必修科目で学んだことをさらに深く考察できるよう、防衛英語を含む選択必修科目を開講します。

■防衛学特論

自衛官としての実務経験を有する教官によるゼミナールであり、安全保障や防衛に関する諸問題を広い視野をもって実践的かつ多角的に研究します。



科目区分	授 業 科 目	単位数					
必修 〔必要修得単位数20単位〕	共通	防 衛 学 基 礎 I	2				
		防 衛 学 基 礎 II	2				
		国 防 論	2				
		軍 事 史 序 論	2				
		作 戦	2				
		軍 事 と 科 学 技 術	2				
		統 率	2				
		国 際 情 勢 と 安 全 保 障	2				
		陸 上 作 戦	2				
		海 上 作 戦	2				
		航 空 作 戦	2				
		防衛学 〔最低修得単位数24単位〕	要員別	国防に関する特論	1		
				戦史に関する特論	1		
				戦略に関する特論	1		
軍事技術に関する特論	1						
統率に関する特論	1						
選択必修 〔修得単位数24単位〕	防衛学特論			国際人道法	2		
				紛争と国際社会	2		
				防衛法制実務概論	2		
				我が国の防衛政策の変遷	2		
				情報基礎	2		
				同盟国等の国防政策	2		
				我が国の安全保障と軍備管理	2		
				国防	戦史	戦 史 I	2
						戦 史 II	2
		自衛隊史 I	2				
		自衛隊史 II	2				
		戦史考察法	2				
		古代西洋戦史	2				
		軍事	防衛英語	戦 略 論 I	2		
戦 略 論 II	2						
戦 略 論 III	2						
軍事古典研究	2						
科学技術と安全保障	2						
戦闘の勝敗と兵器作戦論	2						
防衛英語	防衛英語	防衛学専門書講読Ⅰ (戦略思想)	2				
		防衛学専門書講読Ⅱ (米欧軍事史)	2				
		防衛学専門書講読Ⅲ (アメリカの安全保障)	2				
		防衛学専門書講読Ⅳ (軍備管理)	2				
選択	防衛英語	実用軍事英語	2				
		特別講義	1～2				

※ 授業科目は年度によって変わることがあります。



■ 共通科目

専門学科に耐えうる、確かな基礎学力を身につける。

School of Humanities and Social Sciences / Schools of Science and Engineering

専門基礎

● 人文・社会科学専攻

国際的な場でも活躍しなければならない幹部自衛官として、幅広い知識と教養を身につけるために必須となる基礎知識を修得することが目的となっています。また、3つの専門分野の導入、紹介という意味もあり、いずれも第1学年で履修しますから、進むべき専門を選択するための十分な知識の獲得が可能です。



主な科目とその概要

■ 歴史学

歴史学とはどのような特質をもった学問なのか、どのように発展してきたのか、そして他の諸科学とどのように関わってきたのかなどの原理的・基礎的な事柄について学びます。歴史家が研究の際に行うテーマ選定、文献目録の作成、史料の選定・収集・分析、歴史補助学の利用などについても講義します。

■ 人間学

「人間とは何か」という問いに対する、哲学と心理学というふたつの学問によるアプローチを学びます。この問題に関しては、古来、哲学・倫理学においてさまざまな考察が展開されてきましたが、講義ではそのなかからとくに現代のわれわれの人間観にも大きな影響を与えている要素を重点的に取り上げます。また今日の人間理解の形成にあたっては、人間に関する科学的探究の成果を無視することはできませんが、講義ではこうした観点から心理学の基礎についても学びます。

■ 政治学

議会、行政、政党、選挙など現代政治学の基本的問題を取り上げ、時事問題にも触れながら幅広く講義します。さらには国内政治と国際政治との相違や、政治と防衛との関わりについても学び、政治にいかに向き合うかを考究していきます。

■ 経済学

不景気、デフレ、失業などの「経済現象」を正確に理解・説明するために経済学と基本原理を、題材を絞って学びます。

■ 憲法

日本国憲法の重要原理である平和主義や基本的人権の意義、国家統治機構のメカニズムなどについて基礎理論を説明し、時事問題と関連づけながら今日の憲法問題に対する意識を喚起します。

■ 国際法概論

国家や国際機構とは何かより始まり、条約、国家領域、海・空・宇宙、人権保障、紛争処理、安全保障や戦争などに関する規則を学びます。



経済学：マクロ経済学、デフレ・スパイラルといった基礎を学ぶ。



何を学ぶ? どう学ぶ? ● 1学年で履修する科目の殆どは言うまでもなく、高等学校までに勉強したことを基礎として授業が進められますから、受験科目だけではなく、高校での主要な科目については、すべて学習しておく必要があります。

理工系では、数学Ⅲまでは当然とし、採用試験で化学を選択した学生も物理Ⅰ程度は履修しておかなければなりません。化学Ⅰについても同様です。

人文・社会科学専攻の学生についても、専門基礎ではありませんが、教養教育の必須科目として数学、物理、化学があるため数学ⅠA・ⅡBなどもよく理解しておいてください。

人文・社会科学専攻									
科目区分	授	業	科	目	単位数				
専門基礎 最低修得単位数16単位	必修 修得単位数16単位	歴	史	学	2				
		人	間	学	2				
		政	治	学	2				
		社	会	現	象	と	統	計	2
		経	済	学	2				
		憲	法	2					
		国	際	法	概	論	2		
		法	学	基	礎	2			
		選択	言	語	文	化	論	2	
			組	織	管	理	2		
国	際		関	係	概	論	2		

※ 授業科目は年度によって変わることがあります。

●理工学専攻

理工系のどの分野に進んでも必要な基礎知識を修得することが目的です。いずれも高等学校で学ぶ数学、物理、化学が重要な基礎となっており、第1学年、第2学年にまたがって履修します。また、防衛大学校の特色に鑑み、学年制を考慮したカリキュラムとなっています。

主な科目とその概要

■数学Ⅰ

行列および行列式の基礎理論について、主に連立1次方程式を題材として学びます。

■数学Ⅱ

1変数関数の微分および多変数関数の偏微分を学びます。応用として、不定形の極限、1変数関数の増減や極値、2変数関数の極値などを求めます。

■数学Ⅲ

1変数関数の積分および多変数関数の重積分を学びます。応用として、曲線の長さ、面積、体積、曲面積などを求めます。

■理工学入門

1学年初学期に専門学科に係る様々なトピックスに触れ、基礎学力を向上する機会です。教官の専門を生かしたたくさんのテーマが用意され、高等学校で身につけた能力に応じて学びます。

■物理学Ⅰ

物理学の基礎として、力学的運動が、微分・積分という基本概念から構成されていることを学びます。その際、物体を質量が一点に集中した大きさのない点(質点)の運動として扱います。

■物理学Ⅱ

惑星や人工衛星の運動など、複数の質点にかかわる運動を学びます。さらに、大きさのある物体を、運動中に質点間の相対位置が変化しない体系(剛体)として捉え、回転運動の効果などを学びます。

■物理学Ⅲ

電磁気的な力を電場や磁場の概念から理解し、荷電粒子の運動や、電磁場の時間変化によって生じる典型的な現象について学びます。

■化学Ⅰ

原子構造と周期表の関係、さらに分子構造と分光学との基礎的な関係を学ぶことにより、化学の基礎に対する理解を深めます。

■化学Ⅱ

化学反応や化学熱力学の基礎について学びます。さらにその応用として溶液、電気化学、さらには固体物性に対する理解を深め、化学物質の一般的知識を広げます。

■基礎科学実験

光速の測定、電磁誘導現象、酢酸エチルの合成、生体構成物質の抽出などの実験を行い、自然科学現象を観察したり基本的な定数を求めるなどの体験をします。

■化学実験

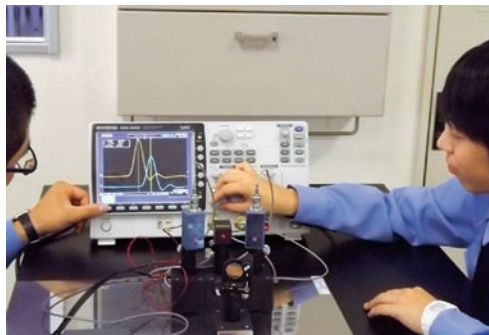
アセトアニリドの合成、酵素反応を利用した不斉還元、酸化還元滴定、凝固点降下法による分子量測定、反応速度の測定などの基本的なテーマで化学実験を行い、化学の理解を深めます。

■物理学実験

音速の測定、電流がつくる磁場、光のスペクトル分解、放射線吸収などの実験を行い、報告書を作成します。考察する力や報告書を書く力を身につけます。



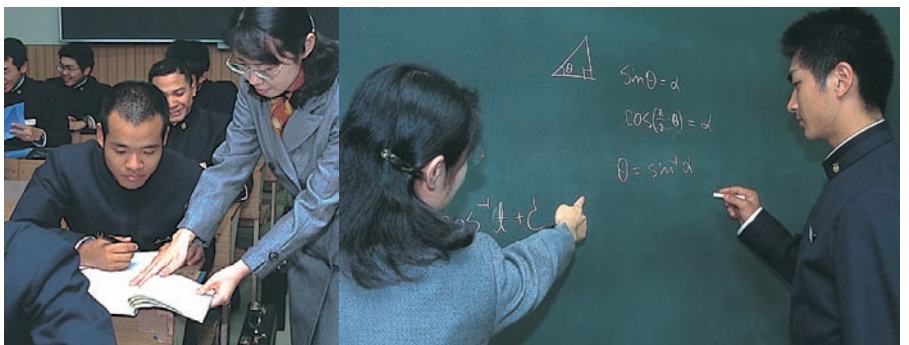
基礎科学実験(化学・生化学)：酢酸とアニリンの合成実験。薬が目に入らぬよう、ゴーグルは必須。



基礎科学実験(物理分野)：光速の測定



物理学実験：基礎的な物理現象や物理量の測定原理を学ぶ



数学Ⅲ：多変数関数の基本公式を練習。数学の理論を徹底的に学ぶ。

理工学専攻														
科目区分	授	業	科	目	単位数									
必修(修得単位数24単位)	専門基礎(最低修得単位数30単位)	数	学	I	2									
		数	学	II	2									
		数	学	III	2									
		数	学	I	演習	1								
		数	学	II	演習	1								
		数	学	III	演習	1								
		理	工	学	入門	2								
		物	理	学	I	2								
		物	理	学	II	2								
		物	理	学	III	2								
選択		化	学	I	2									
		化	学	II	2									
		基	礎	科	学	実	験	1						
		化	学	実	験	1								
		物	理	学	実	験	1							
		数	学	IV	2									
		複	素	関	数	論	2							
		確	率	・	統	計	2							
		物	理	学	IV	2								
		生	物	化	学	2								
エ	ン	ジ	ニ	ア	リ	ン	グ	・	メ	カ	ニ	ク	ス	2

※ 授業科目は年度によって変わることがあります。

人文科学の方法で、人間をより深く、多角的に理解する！

人間文化学科

人間文化学科は、幹部自衛官の任務全般に求められる人間本質に対する洞察力や、自衛隊の海外派遣の増加に伴いますます必要とされる国際的センス、すなわち自他の文化に対する深い理解や語学力を身につけた人材の育成を目的としています。

1・2学年では異文化理解の基礎となる人文科学の方法に親しむとともに、さまざまな民族の歴史や文化についての知見を拡げていきます。

3・4学年では第2外国語や他学科より多い英語の授業をとおして語学力の向上を図るとともに、各自が関心をもった人文科学の諸分野について、ゼミ形式の授業でより深く学んでいきます。

とくに4学年では自他の文化理解に関わるテーマを選び、人文科学的なアプローチに基づいた卒業研究の作成に取り組みます。



何を学ぶ？どう学ぶ？●人間文化学科では哲学・心理学・歴史学・地理学・文化人類学・言語文化などの人文科学の諸分野を幅広く学び、日本や世界各地の歴史や文化についての教養を身につけます。また本学科の特色として英語や第2外国語の学習機会が他学科よりも多いということが挙げられます。こうした人文科学や語学の学習によって培われた、人間を多角的に、また内面から理解する姿勢は、海外派遣で異文化と接するときや、職場でのメンタルヘルスマネジメントにおいてもきつと役に立つはず。学科の授業は少人数のゼミナールが多く、卒業研究の作成に際しても丁寧な個人指導を受けることができます。また毎年、校外研修の機会などもあり、教官と学生の距離が近いアットホームな雰囲気は学生には好評です。



主な専門科目とその概要

■欧米史概論

欧米の歴史を通して、歴史的な見方・考え方を修得します。

■日本史概論・アジア史概論

国際的な視野を養成するため、特に地域間の相互交流に留意しながら、日本やアジア諸地域の歴史に関する基礎的事項を学んでいきます。

■宗教文化史

キリスト教の歴史とその社会に及ぼした影響について考え、西洋の文化的・思想的伝統を学びます。

■文化地理学

自然現象や人文現象の分析を通して、その地域の歴史的な背景を理解し、現代的課題に応えるための実用性の基礎を身につけます。

■心理学概論

異文化理解の前提となる、文化的多様性を越えた人間同士のコミュニケーションの方法や、多様な価値観を理解する能力を心理学の立場から学びます。

■臨床心理学

病気や障害、あるいは不幸な経験などによって引き起こされる心理的苦悩を軽減するための心理援助について学びます。

■地域思想論Ⅰ・Ⅱ

西洋・東洋哲学の基本的なトピックや著述、その歴史的な展開を考察することで、その地域のアイデンティティのかたちや歴史思想を学びます。

■文化人類学

人間の文化的活動を科学的にとらえる方法を学習し、グローバルなものを見方をする基礎を学びます。

■異文化コミュニケーション論

国際交流の際必要となる言語によるコミュニケーションの方法や基礎理論を実践的に学びます。

■日本語文化論Ⅰ・Ⅱ

日本語・日本文学を通して、日本文化の独自性を学び、国際交流の際、自己の視点に立った情報発信ができるようにします。

■英語コミュニケーション論

英語を「聴き、話し、読み、書く」能力を高め、英語を実際に使いこなす運用能力を集中的に指導します。

■各国語ゼミナールⅠ～Ⅳ

独語・仏語・中国語・露語・朝鮮語・アラビア語の少人数クラスに分かれ、各文化と言語を多角的に学びます。

■歴史学研究・人間学研究・言語文化研究・人間文化研究

ゼミ形式で文献精読の方法、人文科学の各分野の方法論、論文作成法、口頭発表の方法を習得します。

■ストレス管理論

ストレスおよびストレス・コントロールの基礎的な概念、理論、方法について学び、心身の健康についての理解を深めます。

■人間関係論

人間関係の諸相その基礎理論・人間集団の統率の方法を、心理学の立場から学び、異文化社会への理解の基礎とします。

■現代思想論

欧米の近現代思想やその流れを学び、人間・文化理解のための哲学的背景の素養を身につけます。

■比較文化論

国際交流に欠かせない、自文化と異文化とを比較する視点からの文化理解の仕方を学びます。



写真：卒業研究中間発表会(上から1枚目・2枚目)
卒業式典(3枚目)
校外研修における本学科学生(4枚目)

科目区分	授業科目	単位数	
必修 〔修得単位数42単位〕	欧米史概論	2	
	アジア史概論	2	
	日本史概論	2	
	宗教文化史	2	
	文化地理学	2	
	心理学概論	2	
	臨床心理学	2	
	地域思想論Ⅰ	2	
	地域思想論Ⅱ	2	
	文化人類学	2	
	日本語文化論Ⅰ	2	
	日本語文化論Ⅱ	2	
	異文化コミュニケーション論	2	
	英語コミュニケーション論	2	
	英語言語文化論	4	
	英米文化論	4	
	卒業研究	6	
	選択必修 〔修得単位数6単位〕	歴史学研究Ⅰ	2
		歴史学研究Ⅱ	2
		歴史学研究Ⅲ	2
		人間学研究Ⅰ	2
		人間学研究Ⅱ	2
		人間学研究Ⅲ	2
		言語文化研究Ⅰ	2
		言語文化研究Ⅱ	2
		言語文化研究Ⅲ	2
言語文化研究Ⅳ		2	
人間文化研究Ⅰ		2	
人間文化研究Ⅱ		2	
人間文化研究Ⅲ	2		
専門科目 〔最低修得単位数66単位〕	ドイツ語ゼミナールⅠ	2	
	ドイツ語ゼミナールⅡ	2	
	ドイツ語ゼミナールⅢ	2	
	ドイツ語ゼミナールⅣ	2	
	フランス語ゼミナールⅠ	2	
	フランス語ゼミナールⅡ	2	
	フランス語ゼミナールⅢ	2	
	フランス語ゼミナールⅣ	2	
	中国語ゼミナールⅠ	2	
	中国語ゼミナールⅡ	2	
	中国語ゼミナールⅢ	2	
	中国語ゼミナールⅣ	2	
	ロシア語ゼミナールⅠ	2	
	ロシア語ゼミナールⅡ	2	
	ロシア語ゼミナールⅢ	2	
	ロシア語ゼミナールⅣ	2	
	朝鮮語ゼミナールⅠ	2	
	朝鮮語ゼミナールⅡ	2	
	朝鮮語ゼミナールⅢ	2	
	朝鮮語ゼミナールⅣ	2	
	アラビア語ゼミナールⅠ	2	
	アラビア語ゼミナールⅡ	2	
	アラビア語ゼミナールⅢ	2	
	アラビア語ゼミナールⅣ	2	
	文献講読Ⅰ	2	
	文献講読Ⅱ	2	
選択	欧米史特論	2	
	アジア史特論	2	
	日本史特論	2	
	宗教社会史	2	
	地域環境論	2	
	ストレス管理論	2	
	人間関係論	2	
	心理学実験法	2	
	現代思想論	2	
	比較思想論	2	
	比較文化論	2	
	メディア文化論	2	
	アジア社会論	2	
	多文化共生論	2	
	異文化交流論	2	
	多文化共生社会における倫理	2	
	異文化コミュニケーション概論	2	
	英語コミュニケーション概論	2	
	地域情報学	2	
	英語文献講読	2	
政治外交史	4		
特別講義	1~2		
人文・社会科学専攻他学科の専門科目			

※ 授業科目は年度によって変わることがあります。

スパイラルに絡み合う「社会」を、政策という視点で研究する。

公共政策学科

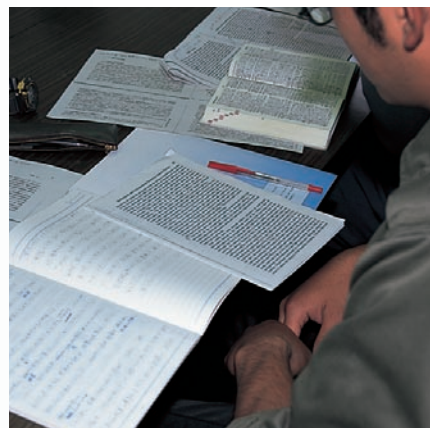
将来の幹部自衛官にとって不可欠な社会全般に対する理解を深めるために、政策的関心という統一的視点から多様な学問領域の総合をめざして設立された学科です。当学科では、政治学・経済学・法学などの基礎的学問を修得したうえで、組織論・社会学・安全保障論・危機管理などの、政策形成過程を科学的に分析するための科目を用意しています。さまざまな科学的手法と方法論を学び、現実の具体的な事例に即した分析を目標にしています。



公共政策研究：教官1名に対して学生数名ほどで行われる公共政策研究。少人数クラスで密度の高い授業が受けられる。

何を学ぶ？どう学ぶ？●2学年および3学年の「公共政策研究」では、少人数のクラスで論文および書物の読解力、作文能力、発表能力を各人の興味に従ったテーマを選んで徹底的に訓練します。4学年の卒業研究でその成果を論文にまとめるだけでなく、全員が校内外に公表するための発表会を開催します。

そのため、各人の関心に基づいて主体的に語学力、数理的能力、コンピュータなどによる情報処理能力を磨かなければなりません。さらに、問題提起能力あるいは政策立案・企画能力をめざして、教官共々新しい学問分野を確立していく、という意気込みで参加するように期待します。



主な専門科目とその概要

■公共政策総論

公共政策の効果と評価の手法を習得することで、政策が国民生活にどのような影響を及ぼすかを学びます。

■政策過程

国際比較をまじえながら、日本国内の政策形成過程を研究します。

■組織と戦略

組織論的観点から政策および戦略の策定の問題を学び、組織の問題が政策にどう影響するかを考察します。

■経済政策

財政政策、金融政策、通商政策を理論的に解説すると共に、具体的なデータを使って経済政策の手段と制度を分析します。

■安全保障法制

日本国憲法と安全保障関連の防衛法制の関連を学びます。自衛隊の任務等だけでなく、冷戦後の安全保障政策およびPKO関連法についてなど広く防衛政策について素養をつちかいます。

■社会調査法

社会調査の方法を、具体的に実習します。事例調査法、自由面接法、生活史法、質問紙調査法などの分析手法を学びます。

■国際経済学

国際貿易の意義や国内経済への影響、輸出入される財の種類、為替レートの変化などについても学びます。

■法学

専門的な行政法、防衛法などの法学関連科目を学ぶために必要な基礎知識の習得はもちろんのこと、法の意味、目的、種類なども学びます。

■組織比較

公企業組織、行政組織、軍事組織などを、主に効率性の観点から比較することが目標。そのための理論的手法として取引コストの理論、エージェンシー理論、所有権理論を学びます。

■行政法

地方自治法、防衛行政法、行政事件訴訟法、国家賠償法などを解釈しながらその基本構造を学びます。

■日本経済

戦後日本の経済発展を、戦後の復興期、高度経済成長期、オイルショックとその後、バブル経済、90年代長期停滞期と順を追って学びます。

■社会学

社会学の基礎を学んだ後、教育問題や少年非行など、現実に起こっている社会問題を取り上げます。

■司法制度

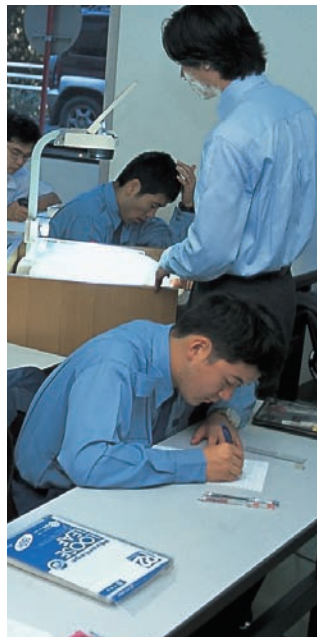
検察制度、執行制度、弁護士制度、裁判外紛争解決制度など、裁判所を中心とした各種制度の理解と、その機能を学びます。

■公共マーケティング

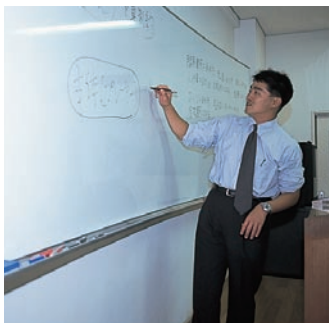
公組織における人材募集、対外広報、行事案内などのマーケティングを学びます。

■公共選択

集团的意志決定である公共選択において、公共財の適正供給をいかにして行かかを研究します。



公共政策総論：実例をもとに公共政策の問題点を学ぶ。



政策過程：日本の政策を国際比較を行いながら学ぶ。



科目区分	授業科目	単位数
必修 〔修得単位数40単位〕	公共政策総論	2
	政策過程	2
	組織と戦略	2
	日本経済	2
	危機管理政策Ⅰ(日本)	2
	危機リスク管理原論	2
	国際経済学	2
	経済統計	2
	社会調査法	2
	経済政策	2
	安全保障法制	2
	行政法	2
	公共政策研究Ⅰ	4
	公共政策研究Ⅱ	4
公共政策研究Ⅲ	2	
卒業研究	6	
専門科目 〔最低修得単位数66単位〕	法学	2
	社会学	2
	組織比較	2
	司法制度	2
	政治外交史	4
	科学と倫理	2
	公共マーケティング	2
	意思決定論	2
	厚生経済学	2
	国際公共政策	2
	政治思想	2
	危機事案研究Ⅰ	2
	危機事案研究Ⅱ	2
	危機管理政策(中東)	2
	危機管理政策Ⅲ(欧州)	2
	危機管理政策Ⅳ(米州)	2
	災害組織論	2
公共組織	2	
公共選択	2	
情報と意思決定	2	
民事法	2	
軍隊と社会	2	
危機管理特論(防謀論)	2	
安全科学総論(安全科学とリスクマネジメント)	2	
海洋環境セキュリティ論	2	
航空宇宙セキュリティ論	2	
選択	特別講義	1~2
選択	人文・社会科学専攻他学科の専門科目	

※ 授業科目は年度によって変わることがあります。

グローバル・スタンダードの安全保障の専門教育が受けられる。

国際関係学科

グローバル化が進む中、国際社会では、政治や外交、安全保障、経済、文化、人の移動など、様々な問題が複雑に絡み合っています。国際関係学科では、そうした複雑な国際社会において、日本がどのような立場に置かれていくのか、的確に理解していく手法を学んでいきます。そこでは、国際政治学や比較政治、国際政治史、外交史、国際システム、軍備管理、危機管理といった国際関係全般に関わる科目、米国、アジア、欧州、中東、大洋州といった地域研究科目、国際機構や海洋法など国際法系科目などが用意されています。こうした充実したカリキュラムの下で、国際関係学科は将来の幹部自衛官たる学生に、安全保障の実り多い専門教育の場を提供します。



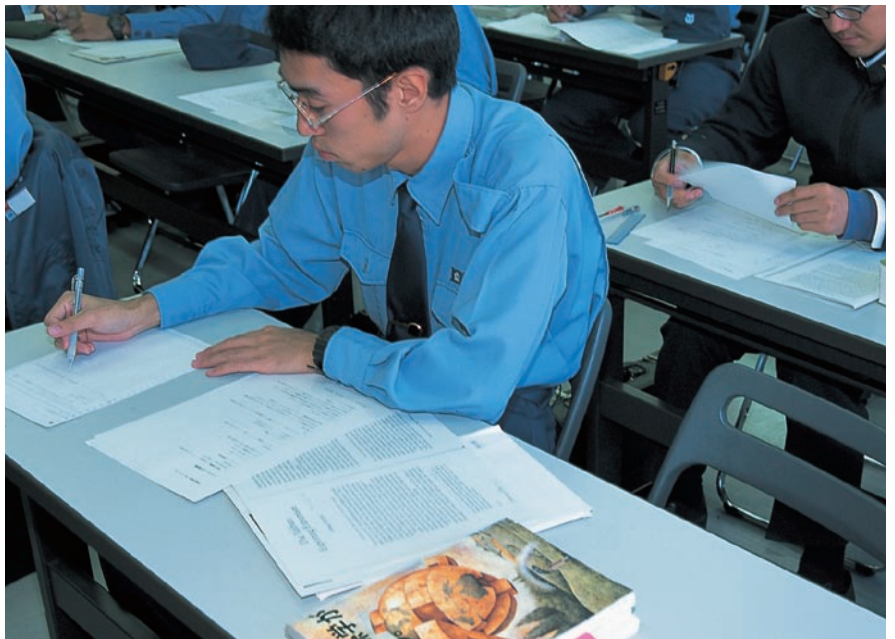
国際関係研究：少人数のゼミ形式で外国の論文、国家間の外交文書や条約を原文で読む授業。語学はもとより、世界における日本の役割を学ぶ。

何を学ぶ? どう学ぶ? ●国際化やグローバル化が進んでいる現在、国際情勢の動向を的確に捉え、国際社会での日本の地位や役割を理解することは、これからますます必要になってきます。特に幹部自衛官は国の防衛に携わるとともに、国連平和維持活動(PKO)への参加など国際平和を推進するための知識や能力が求められています。国際関係学科はこうした幅広い分野で活躍できる将来の幹部自衛官を育成することを目指しています。「平和や安全とは何か」「なぜ紛争や危機が起きるのか」「国際関係はどうあるべきか」といった問題意識を持っている学生を歓迎します。国際関係学科の学生は、危機管理プログラム(47ページ参照)を履修することができます。





比較政治：民主化のプロセスを学ぶ。各人の研究成果の発表も。



主な専門科目とその概要

■国際政治学

国際社会の特徴、平和や紛争の問題など、国際政治を学ぶために必要な基礎的な概念や理論を身につけます。

■国際政治史

近代国家の成立から冷戦の終焉まで、ヨーロッパを中心とした国際政治の歴史を学びます。

■国際法

国家の基本的権利や義務、国家の領域、武力紛争(戦争)法など国際法のさまざまな分野を、国家の安全保障の観点から踏まえながら分析します。

■政治外交史

近代から現代までの日本の対外関係を、国際環境の変化にどう対応したかという視点から概観します。

■軍事史

戦争の本質とは何か、政治と軍部の関係は、といった戦争に関する幅広い知識を身につけます。

■軍備管理論

核兵器や生物化学兵器、小火器など軍備管理と軍縮についての諸問題を、基礎から応用まで学びます。

■現代地域研究

アメリカ、アジア、ヨーロッパ、中東、ロシア、大洋州など世界の各地域の国際関係や日本との関わりなどを分析します。

■国際関係研究

少人数によるゼミ形式で国際関係についての特定のテーマを学ぶことで、国際関係論の研究方法を身につけます。

■国際機構論

国連やその他の国際機構を取り上げながら、国際機構の歴史や組織、国際法上の権利や義務、さまざまな活動などを学びます。

■比較政治

民主主義や全体主義、権威主義などの政治体制の違いや、それぞれの体制が変化する要因や過程を、理論と実証を織り交ぜて分析します。

科目区分	授業科目	単位数
必修 〔修得単位数40単位〕	国際政治学	4
	国際政治史	4
	国際法	4
	政治外交史	4
	軍事史	4
	軍備管理論	2
	危機リスク管理原論	2
	危機管理政策Ⅰ(日本)	2
	国際関係研究Ⅰ	4
	国際関係研究Ⅱ	4
卒業研究	6	
専門科目 〔最低修得単位数66単位〕	安全保障政策論	2
	海洋法概論	2
	国際機構論	2
	地域研究特論	2
	危機事案研究Ⅱ	2
	比較政治	2
	危機管理政策Ⅱ(中東)	2
	国際関係特論	2
	現代地域研究Ⅰ	2
	現代地域研究Ⅱ	2
	現代地域研究Ⅲ	2
	現代地域研究Ⅳ	2
	現代地域研究Ⅴ	2
	現代地域研究Ⅵ	2
	現代地域研究Ⅶ	2
	現代地域研究Ⅷ	2
国際システム論	2	
危機管理特論(防諜論)	2	
安全科学総論(安全科学とリスクマネジメント)	2	
海洋環境セキュリティ論	2	
航空宇宙セキュリティ論	2	
選択 〔修得単位数26単位〕	特別講義	1~2
	人文・社会科学専攻他学科の専門科目	

※授業科目は年度によって変わることがあります。

地域研究特論：日本と世界各地の関係を学ぶ。ここではイスラムの復興についての授業が行われた。

変化し続ける技術(工学)を学び、発見(理学)のよろこびを見い出す。

応用物理学科

技術は常に変化を続け、単なる知識など数年を経ずに色あせていきます。

そこで、自然法則と技術との橋渡しを担う応用物理学科では、既成の技術や特定の専門分野に偏ることなく、科学技術全般に共通する幅広い基礎知識に基づく論理的思考力と応用力を身につけた「真のゼネラリスト」の育成を目的としています。そのために、素粒子や物性物理学から人間情報工学や弾道学まで幅広い分野で活躍する多数の教授陣による少人数教育を実施し、カリキュラムは、科学技術における基本原理とその論理的展開を重視し、基礎的な内容から徐々に積み上げ最終目標に達するように組んでいます。

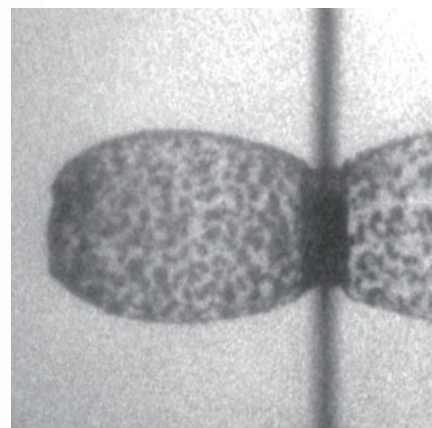
自然法則の発見(理学)から技術的展開(工学)まで知的体系を極める喜びを応用物理学科では学生と分かち合えるような教育研究を行っています。



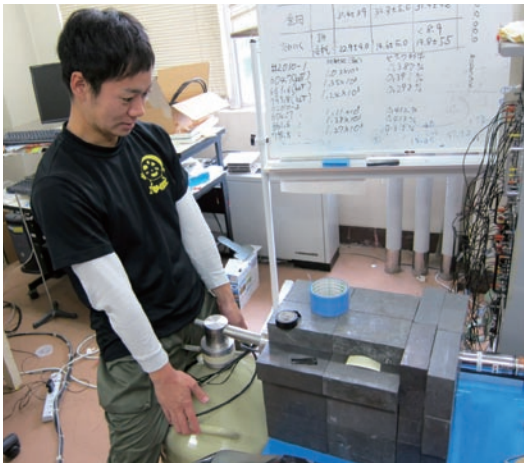
超高速衝突実験：小型2段階軽ガス加速装置を使って、微小隕石や宇宙デブリの衝突を模擬する実験を行う。

何を学ぶ? どう学ぶ? ●少人数教育を心がけ、実験と演習を多く取り入れ、教員と学生とのふれあいを大切にしています。大学教育ですから、ある程度高度な結果が求められますが、基礎的な内容から徐々に積み上げ最終目標に達するようにカリキュラムを組んでいます。

4学年の卒業研究では、「人間情報工学」、「高速弾道学」、「コンピュータシミュレーション科学」、「物性物理学」そして「素粒子物理学」など、基礎(理学)から応用(工学)まで幅広い分野からテーマを自由に選び、教官と1対1で研究を進めていきます。そこでは、問題点の捉え方、問題の解決法、データの収集法、論文の書き方や発表の仕方などを身につけます。



秒速5,000メートルの衝突を受けたアルミニウム合金の板がゴム風船のように膨らみ、破裂する。



卒業研究（超伝導物性研究室）：低温装置を用いた超伝導実験。



卒業研究（応用数生理理学研究室）：生体細胞の培養と染色の実験



卒業研究（脳情報処理研究室）：航空機操縦時の視線計測と有効視野の解析。

主な専門科目とその概要

■応用数学

応用物理学科学生として必要な数学の基礎的素養を身につけます。

■熱力学

熱力学の基本原則を理解し、その応用についての知識を学びます。

■力学

体系化された古典力学、すなわち解析力学を学びます。

■電磁気学

真空中の電磁気学と相対論について理解します。

■回路論

電気回路に関する計算法や諸定理を理解し、電気・機械振動や波動の解析への応用の基礎的事項を学びます。

■統計力学

平衡状態の統計力学に関する基礎的知識を学びます。

■連続体力学

縮まない流体の基礎を学び、流れ現象を理解し、巨視的な連続体力学の主要な法則、解析法を学びます。

■量子力学

現代の科学技術の基礎である量子力学を学びます。量子力学の基礎的な考え方になれた後、現実の量子現象を説明します。

■バイオメカニクス

生体内の様々な生理学的作用を力学的な視点で捉え、生命現象を理解します。

■放射線計測

各種放射線の性質、検出手段および放射線防護について学びます。

■応用物理学実験Ⅰ、Ⅱ

応用物理学に関する基礎的及び応用的実験を実施し、講義内容の理解を深めるとともに、基本的測定技術を身につけます。

■応用物理学演習Ⅰ、Ⅱ

講義内容の理解を深めるため、みずから問題を解きます。

■卒業研究

応用物理学の中で自由にテーマを選び、教官と1対1で研究を進め、テーマの選び方から問題点の捉え方、問題の解決法、データの収集法、論文の書き方、発表の仕方などを身につけ、総合的に4年間の防大教育の実をあげます。

科目区分	授 業 科 目	単位数	
必修 〔修得単位数28単位〕	応 用 数 学	2	
	力 学	2	
	熱 力 学	2	
	電 磁 気 学	2	
	量 子 力 学	2	
	統 計 力 学	2	
	連 続 体 力 学	2	
	応 用 物 理 学 ゼ ミ	4	
	応 用 物 理 学 演 習 Ⅰ	1	
	応 用 物 理 学 演 習 Ⅱ	1	
専門科目 〔最低修得単位数54単位〕	応 用 物 理 学 実 験 Ⅰ	1	
	応 用 物 理 学 実 験 Ⅱ	1	
	卒 業 研 究	6	
	選択必修 〔修得単位数10単位〕	応 用 情 報 処 理	2
		回 路 論	2
		応 用 物 理 学 演 習 Ⅲ	1
		応 用 物 理 学 演 習 Ⅳ	1
		弾 塑 性 力 学	2
		量 子 物 理 学	2
		物 質 科 学 Ⅰ	2
物 質 科 学 Ⅱ		2	
原 子 核 物 理 学		2	
先 端 科 学 技 術 概 論		2	
プ ラ ズ マ 工 学	2		
選択	光 科 学	2	
	人 間 情 報 工 学	2	
	電 子 情 報 工 学	2	
	相 対 性 理 論 と 宇 宙	2	
	バ イ オ メ カ ニ ク ス	2	
	計 算 機 シ ミ ュ レ シ ョ ン 科 学	2	
	高 速 弾 道 学	2	
	放 射 線 計 測	2	
	超 伝 導	2	
	応 用 数 理 科 学	2	
特 別 講 義	1~2		

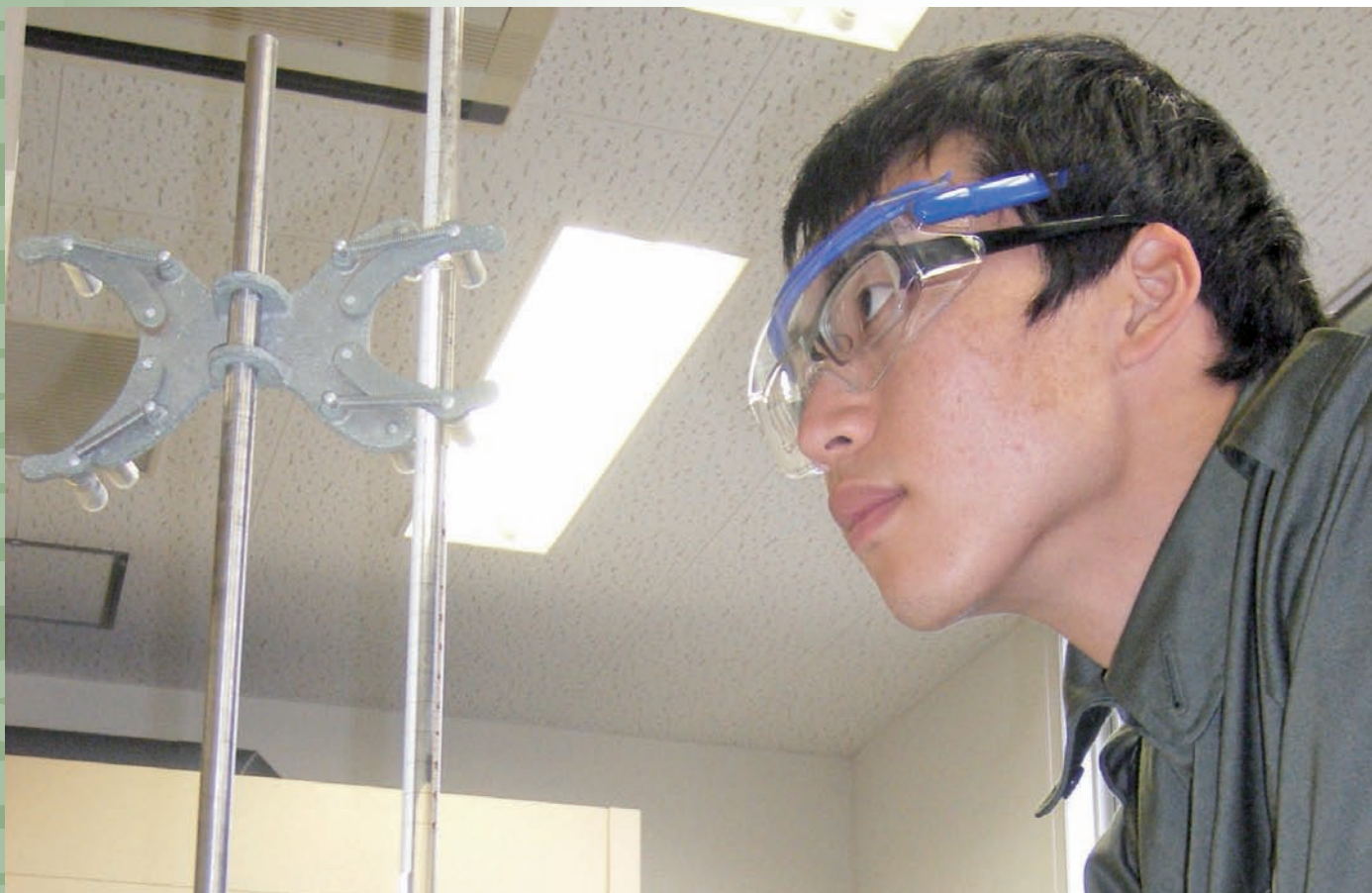
※ 授業科目は年度によって変わることがあります。

理工学専攻の他学科の科目を選択科目として履修できます。
(例) 防災化学、微生物学

いままでにない物質を開発し、化学で目指す社会の発展。

応用化学科

化学は物質の性質や物質の関与する反応や現象に関する学問です。そのため自然科学の中で占める化学の役割は大きくかつ広い分野にわたります。応用化学科では無機化学、有機化学、物理化学、分析化学などの基礎的な分野を比較的早い時期に学び、高分子化学、反応化学、燃料化学、火薬学などの応用分野を後期に学ぶように配慮されています。近年、新たに生物化学を追加して分子生物学やバイオテクノロジーに関しても深い理解のある学生を育てることを目指しています。また、実験や演習などの科目では、知識だけではなく計算したり、実際に物質を扱うことを重要視しています。



応用化学実験：塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を滴下しながら電気伝導度を測定し、イオン数の増減から中和点を求める。

何を学ぶ？どう学ぶ？ ●基礎的な科目を大学初期に、応用的な科目を大学後期にと配置されており、無理なく理解できるように配慮されています。4学年の卒業研究では無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、高分子化学、反応化学、燃料化学、火薬学、生物化学などの好きな研究室の好きな教官を選び、マンツーマンの指導を受けることになります。約1年をかけて、与えられたテーマについて実験したり教官と議論をしながら卒業論文を完成します。応用化学科は伝統ある学科ですが、常に新しいものを取り入れダイナミックに変化をめざす学科でもあります。



主な専門科目とその概要

■無機化学

各元素の性質と化学を周期律表を基に講義。原子構造、化学結合、量子力学についても学びます。

■有機化学

有機化合物の諸特性と反応性に関する系統的な理解を促すための講義を行います。

■物理化学

物質を構成する原子や分子が集合して存在している場合を様々な熱力学関数をもとに解釈して、平衡論についての理解を深めるとともに、物質の変化を取り扱う上での基礎知識を得ます。

■分析化学

溶解、分離、濃縮、元素の化学状態の分析について、また、その理論的基礎となる溶液内化学平衡の概念、溶液内化学反応の特徴、各種化学平衡とその分析化学への応用について学びます。

■応用無機化学Ⅰ

遷移元素(d電子及びf電子元素)、電子不足結合、混合原子価化合物、錯体、無機溶液化学、機能性無機材料についての講義を行います。

■応用有機化学Ⅰ

有機化学の基礎を反応論と構造論から正しく理解することが目的。官能基別に講義を進め、複雑に見える有機化合物の性質や反応がどのような法則のもとに理解されるのかを講述します。

■応用物理化学Ⅰ

量子力学と分光学により原子構造、分子構造及び化学結合について講義します。

■高分子化学Ⅰ

繊維やプラスチックの素材である汎用高分子から高性能・高機能高分子にいたるまで高分子素材の合成法及び成形法を明らかにします。

■反応化学

反応速度定数について経験則から統計論的アプローチまでの広い範囲を講義するとともに、物質移動等の化学工学の初歩に触れることにより化学反応の基礎と応用の橋渡しも試みます。

■燃料化学

化石燃料の将来やその有効利用について環境問題と関連して学習。その有効利用については燃料電池の種類や構造、実現性などについても考えていきます。

■火薬学Ⅰ

黒色火薬、ダイナマイト、硝安油剤爆薬、プラスチック爆薬などの火薬類の性能及び試験法、発破などの基礎を学習します。

■生命化学Ⅰ

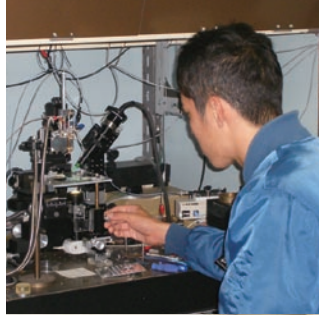
細胞の構造をはじめ、糖質、アミノ酸、脂質など生命維持に必要な化学物質の構造、性質について学びます。さらにたんぱく質、酵素、核酸などについても講義します。

■細胞生物学

生きた細胞内で起っている出来事(成長、合成、分解、分裂等)について学習します。さらに植物や微生物などを用いたバイオテクノロジー技術についても講義します。

■化学演習・応用化学演習

1学年、2学年で学ぶ化学の基礎的な事項や、3学年、4学年で学ぶより高度かつ専門的な内容に関してそれぞれ演習問題を解きつつ化学全般についての理解を深めます。



上：コンピュータ化学の授業
中、下：卒業研究では最先端の実験を行い、得られたデータから真理を洞察する。

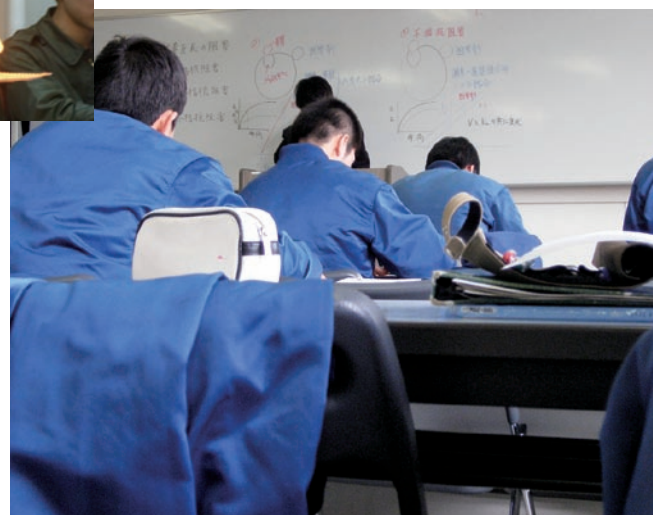


火薬の燃焼実験

生命化学の授業：生体分子の性質や分子集合体の機能、さらにバイオテクノロジーまで、幅広く学ぶ。

科目区分	授業科目	単位数	
必修 〔修得単位数38単位〕	無機化学	2	
	有機化学	2	
	物理化学	2	
	分析化学	2	
	応用無機化学Ⅰ	2	
	応用有機化学Ⅰ	2	
	応用物理化学Ⅰ	2	
	高分子化学Ⅰ	2	
	反応化学	2	
	燃料化学	2	
	火薬学Ⅰ	2	
	生命化学Ⅰ	2	
	細胞生物学	2	
	化学演習	1	
専門科目 〔最低修得単位数54単位〕	応用化学演習Ⅰ(外書講読)	1	
	応用化学演習Ⅱ(外書講読)	1	
	応用化学実験Ⅰ	1	
	応用化学実験Ⅱ	1	
	応用化学実験Ⅲ	1	
	卒業研究	6	
	選択必修 〔修得単位数8単位〕	応用無機化学Ⅱ	2
		応用有機化学Ⅱ	2
		応用物理化学Ⅱ	2
		機器分析化学	2
		高分子化学Ⅱ	2
		プロセス化学	2
		触媒化学	2
		火薬学Ⅱ	2
生命化学Ⅱ		2	
生体分子化学		2	
コンピュータ化学		2	
選択		放射化学	2
		有機合成論	2
		化学熱力学	2
	環境分析化学	2	
	高性能・高機能高分子化学	2	
	応用電気化学	2	
	環境とエネルギーの化学	2	
	爆発と燃焼の化学	2	
	遺伝子工学	2	
	防災化学	2	
	微生物学	2	
	高分子材料	2	
	特別講義	1~2	
	理工学専攻他学科の専門科目		

※ 授業科目は年度によって変わることがあります。



「地球」を学び、自分の小ささを知る。

地球海洋学科

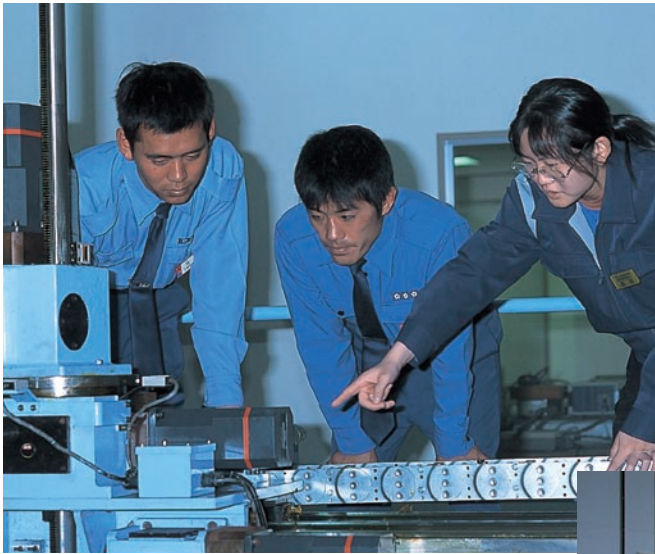
私たちが住む惑星地球について教育研究するのが目的です。総合的な視野に立ち、地球環境を理解できる人材を育成するために、地球惑星の自然現象について基礎と専門教育を行います。教育研究分野としては、大気の運動について知る大気科学、航空管制のための航空気象、地球内部と地震を理解するための固体地球科学、宇宙や地球惑星を調査する宇宙惑星リモートセンシング、音波伝搬により海洋構造を調べる海洋音響学、海洋の熱、氷、運動量を追跡する海洋探知情報、海中音波の探知方式に関する海洋探知システムなどがあります。



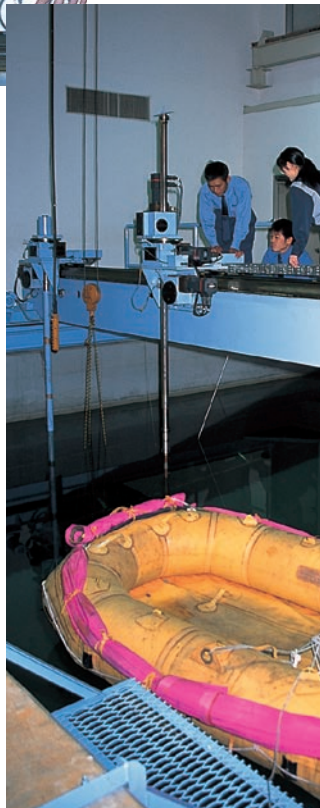
気象学概論：バルーンを上げて上空の温度、湿度、気圧などを計測。気象学の基礎を理解する。

何を学ぶ？どう学ぶ？ ●2学年では地球海洋学の基礎的な授業、3学年では様々な分野の授業、4学年では自由にテーマを選んで卒業研究が行われます。台風、ダウンバースト、航空気象、気象レーダー観測、都市の温暖化、海水、海流、エルニーニョ、地震、マントル対流、銀河、近接連星、小惑星、水中音響探知システム、海洋音響トモグラフィーなどの研究が行われています。卒業研究は興味のあるテーマをもとに観測や実験・解析・理論を通して教官と議論しながらまとめていきます。





卒業研究：水深5mのプールでソナーを使っての反射の実験。



主な専門科目とその概要

■気象学概論

太陽放射、大気大循環、大気に働く力、気圧と風、気温と湿度、温帯低気圧と台風、気団と前線など、地球を取り巻く大気中で起る様々な現象について基礎的な知識を学びます。

■航空気象学

航空機の運用に関する気象現象、例えば、離着陸時の気象現象、巡航時の気象現象などについて学びます。

■地圏科学

地球惑星の内部構造を探る地震学、火山学、マントル対流などの地球内部の変動、地球の熱的構造と地球の進化について基礎的な知識を学びます。

■天文学

地球惑星を取り巻く宇宙環境、例えば、太陽系、太陽と恒星、銀河と銀河団、宇宙の構造と進化などについての基礎を学びます。

■海洋学

地球表面の70パーセントを占める海洋について、海水の動き、水温と塩分の分布、海洋の熱収支、海洋の循環、波と潮汐など全般的な知識を学びます。

■海洋音響工学

海洋音響に関する基礎と応用、例えば、波動方程式、水中音波の反射と透過、海洋音響トモグラフィーなどについて学びます。

■センシング工学

物体の計測に用いられるセンサーの種類や動作原理に関してセンサーの基本原則、各種変換素子、各物理量のセンサー、光波センシング、海洋センサーなどについて学びます。

■ソナー工学

水中音波の基礎理論を学び、水中音波による水中物体探知に関する知識を学びます。

■リモートセンシング

大気・海洋・地球表層を観測するためのリモートセンシングについて、その原理、可視光・赤外・マイクロ波の各リモートセンシングの基礎を学びます。

地球海洋学実験Ⅱ（地震学）：地震計を使っての観測。



科目区分	授 業 科 目	単位数
必修 〔修得単位数35単位〕	熱 力 学	2
	流 体 力 学	2
	応 用 電 磁 気 学	2
	応 用 数 学	2
	海 洋 学	2
	天 文 学	2
	固 体 力 学	2
	気 象 学 概 論	2
	地 圏 科 学 I	2
	振 動 波 動 学	2
	情 報 処 理	2
	地 球 海 洋 学 演 習 I	1
	地 球 海 洋 学 演 習 II	1
	地 球 海 洋 学 演 習 III	1
地 球 海 洋 学 実 験 I	1	
地 球 海 洋 学 実 験 II	1	
計 算 地 球 科 学 演 習	1	
論 文 講 読 演 習	1	
卒 業 研 究	6	
専門科目 〔最低修得単位数54単位〕	リ モ ー ト セ ン シ ン グ I	2
	地 球 流 体 力 学	2
	信 号 解 析	2
	海 洋 計 測 工 学	2
	海 洋 物 理 学	2
	地 球 惑 星 科 学	2
	地 球 科 学 I	2
	海 洋 音 響 工 学	2
	大 気 科 学 I	2
	大 気 科 学 II	2
	変 換 器 工 学	2
	地 圏 科 学 II	2
	ソ ー ナ ー 工 学	2
	地 球 科 学 II	2
環 境 地 球 科 学	2	
応 用 気 象 学	2	
宇 宙 物 理 学	2	
リ モ ー ト セ ン シ ン グ II	2	
航 空 気 象 学	2	
天 気 予 報 論	2	
地 球 海 洋 学 基 礎 英 語	2	
地 球 海 洋 学 英 語	2	
選 択 〔修得単位数14単位〕	セ ン シ ン グ 工 学	2
	気 候 学	2
	衛 星 画 像 処 理	2
	衛 星 画 像 処 理 演 習	1
特 別 講 義	1~2	
	理工学専攻他学科の専門科目	

※ 授業科目は年度によって変わることがあります。

21世紀を支えるエレクトロニクスを学ぶ。

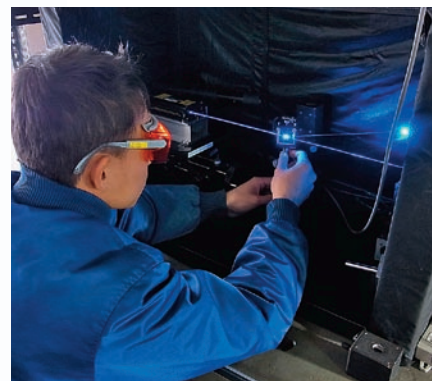
電気電子工学科

電子を自由に繰り応用する技術であるエレクトロニクスは私たちの生活をますます豊かにしています。近い将来到来するユビキタスネットワーク社会においてもその根幹を支える重要な技術となっています。電気電子工学科では、エレクトロニクスの基礎から最先端の応用まで一貫して教育を行い、エレクトロニクスの知識を応用して21世紀の防衛システムの構築に貢献できる幹部自衛官の育成に力を注いでいます。



卒業研究（電気機器工学研究室）：半導体表面に原子レベルで極薄な酸化物膜を成長させる研究

何を学ぶ？どう学ぶ？●電気磁気学などの基礎科目から、電子デバイスやシステム工学などの応用科目まで系統的に学習します。演習や実験を効果的に配置することによって、エレクトロニクスの基礎がしっかり学べるように配慮されています。また、指定した科目の単位を修得することで、第1級陸上特殊無線技士や第3級海上特殊無線技士の資格を得ることができます。



主な専門科目とその概要

■基礎電磁気学・電気磁気学

ベクトル解析、静電界、静磁界、電磁誘導、電磁波について学びます。

■基礎電気回路・電気回路

交流回路現象、各種回路網の解析と合成の基礎理論について学びます。

■電気数学

フーリエ解析・変換とラプラス変換による信号の周波数スペクトル解析法、線形システムの過度現象と周波数特性の解析法を学びます。

■電子理論

真空、気体および固体中での電子の基本的振る舞いについて学びます。

■電気計測

電子式計測器の構成・基礎動作原理とそれらの使用方法、各種応用計測法について学びます。

■電子物性

物質の性質を決定する固体中の電子の振る舞いについて、量子論の基礎、結晶構造、格子振動と比熱、固体のエネルギー帯理論に分けてわかりやすく学びます。

■制御工学 I・II

ロボットに使われているモーターの位置制御系が構成できるようになることを目標に、自動制御の基礎をなすフィードバック制御系の設計や解析法について古典制御論と現代制御論の立場から学びます。

■電子回路 I・II

ダイオードやトランジスタの動作原理と回路表現ならびにこれを利用した増幅・発振・変調回路について学びます。

■電気機器

変圧器、直流機、誘導機、同期機などの電気機器の基礎理論と各機器の特性、ならびにパワーエレクトロニクスの基礎を学びます。

■電気エネルギー工学

エネルギーの基本形態、エネルギー変換、電気エネルギーの発生のしくみ、電気エネルギーの貯蔵方法、電気エネルギーの輸送方法を学びます。

■コンピュータ基礎・応用

コンピュータの動作原理と情報処理のしくみ、ならびにコンピュータを用いた数値計算法を学びます。

■固体電子工学

固体物理の基礎、半導体の帯理論、接合論、半導体電子効果について学びます。

■光エレクトロニクス

光を電気・電子的に制御するための学問。特にレーザーの原理とその応用について学びます。

■電子デバイス

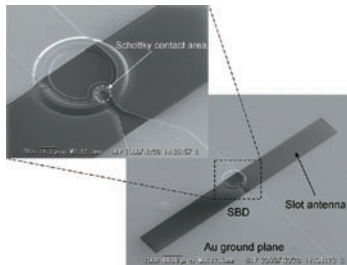
電子デバイスとして半導体デバイスや誘電体デバイスを取り上げ、それらの基本原理と応用例を学びます。

■電波工学

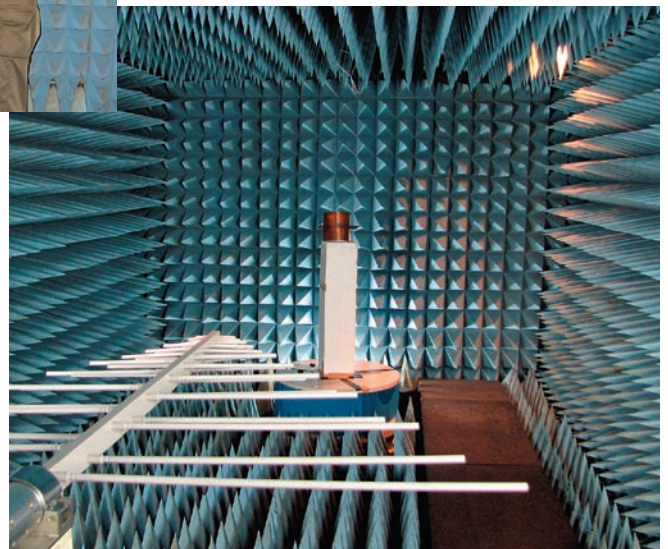
電波の発生、放射、伝搬などの基礎知識と無線通信における実用例について学びます。

■無線機器学

アナログ・デジタル無線機器の動作原理と回路構成を学びます。



卒業研究（電子物理学研究室）：クリーンルーム内で行われる高感度電磁波検出素子の製作に関する研究



卒業研究（電気基礎学研究室）：ステルス性の評価基準となるレーザ断面積の簡易電波暗室を利用した高精度測定法の研究

科目区分	授業科目	単位数	
必修 〔修得単位数26単位〕	基礎電磁気学	2	
	電気磁気学	2	
	基礎電気回路	2	
	電気回路	2	
	電気数学	2	
	電子理論	2	
	電気計測	2	
	基礎電磁気学演習	1	
	電気磁気学演習	1	
	基礎電気回路演習	1	
専門科目 〔最低修得単位数54単位〕	電気回路演習	1	
	電気電子実験Ⅰ	1	
	電気電子実験Ⅱ	1	
	卒業研究	6	
	選択必修 〔修得単位数14単位〕	コンピュータ基礎	2
		電子物性	2
		固体電子工学	2
		電子デバイス	2
		制御工学Ⅰ	2
		制御工学Ⅱ	2
電子回路Ⅰ		2	
電子回路Ⅱ		2	
電気機器		2	
電気エネルギー工学		2	
選択	無線機器	2	
	電気電子英語演習	2	
	電気電子英語ゼミ	2	
	コンピュータ応用	2	
	システム工学	2	
	光エレクトロニクス	2	
	気体エレクトロニクス	2	
	電波工学	2	
	通信システム	2	
	電波法	2	
特別講義	1~2		
理工学専攻他学科の専門科目			

※ 授業科目は年度によって変わることがあります。

人と未来にコミュニケーション。

通信工学科

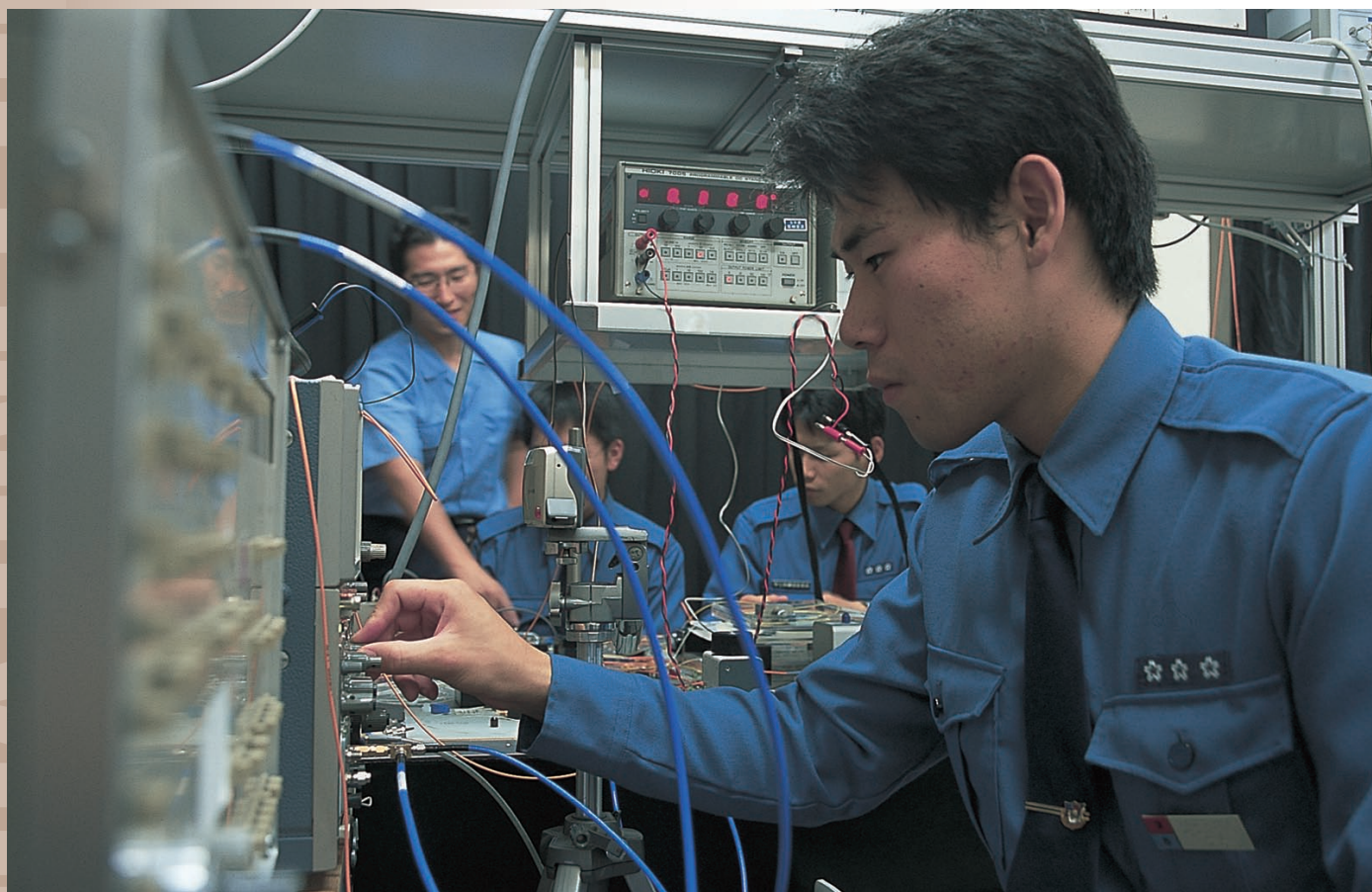
情報通信工学の基礎的・専門的教育を通じて、現状を分析し

データを総合して的確な判断を下す、といった分析や判断ができるようになることが目標です。

さらには無線通信、衛星通信、光通信、インターネット、携帯電話、携帯端末などにより、地球上の出来事を

多くの人々が瞬時に知ったり、また送ったりできるという双方向の通信や、航空機や船舶に利用されている電波を応用したレーダや航行援助装置などの通信装置や、電波応用機器についても専門的知識を修得できるよう教育します。

なお、通信工学科を卒業すると、無線・通信関係の国家試験でさまざまな特典が得られます。



卒業研究（光通信工学研究室）：光ファイバーによる情報通信ネットワークの実験。日々進展するネットワークの根幹を学ぶ。

何を学ぶ？どう学ぶ？●電磁気学や電子回路理論等の通信工学の基礎学問にはじまって、コンピュータによる情報処理、IP(インターネット・プロトコル)技術、無線通信や光情報通信ネットワークといった応用分野まで幅広く学ぶことができます。

4学年の卒業研究では、高出力レーザや電波暗室などの最新鋭の研究設備を使用した最先端の研究(例えば、GHz帯電波吸収体、陸上・海上での電波伝搬、レーダを用いた信号処理技術、マイクロ波・ミリ波通信、プラズマ波伝搬、アンテナ技術、全光変調・光多重分離通信、フォトニクスデバイス、光ファイバセンサなどに関する研究)を教官と議論しながら行うことができます。なお、通信工学科の特定の科目を履修することによって、第1級陸上特殊無線技術士の免許取得、及び電気通信主任技術者・1級陸上無線技術士等の国家資格試験受験科目の一部が免除となる資格が得られます。



主な専門科目とその概要

■通信材料

半導体を中心に誘電体、磁性体材料、及びインターネットの基幹を支える光通信、世界中を結ぶ衛星通信、携帯電話、無線LAN等の無線通信など、これらの様々な通信技術を用いた通信用デバイスについて学びます。また、通信材料の研究開発についても学びます。

■電波工学

電波がどのようにして空気中に放射され、空気中を伝わり、受信者のところまで届くのかについて学びます。

■光通信工学

光による情報伝達の原理、光システムを構成する半導体レーザ、光ファイバ、光増幅器などの構成要素、具体的な光通信システムへの応用例について、基本的な事項を学びます。

■レーダ工学

電波を発射しその反射波を受信することで航空機、船舶、ミサイルなどの目標物体を検出する装置であるレーダの講義。ハード、ソフト両面からレーダの仕組みについて学びます。

■通信工学

音声、画像、データ等の情報源が通信の信号としてどのように取り扱われるか、また、それらの信号波の解析法として、フーリエ級数やフーリエ変換を学んだ後、実際の通信で用いられるアナログ、デジタル変調方式や多重方式などの伝送方式および通信網について勉強します。

■電気通信数学

通信工学で必要とされるベクトル解析、複素関数、フーリエ級数等について学びます。

■光波工学

「光とは何か」といった光の基本的なところから学習し、屈折・干渉・回折等の光学現象とその応用について学びます。また、最新の光エレクトロニクス技術についても学んでいきます。

■デジタル信号処理

デジタル信号処理の素子はDSPという名前のICとして多くの電子機器、例えばCD、MDプレーヤーや携帯電話に組み込まれています。このような身近な話題から授業を進めます。

■通信計測

各種測定器やセンサの基本的な動作原理とその使用法を学び、電磁気量等を正確に測定し、正しく評価する能力を養います。

■電子回路

CD、DVD、パソコン、携帯電話等の情報をデジタル信号に変えることや処理をおこなうための基礎的な回路を学びます。

■コンピュータ工学

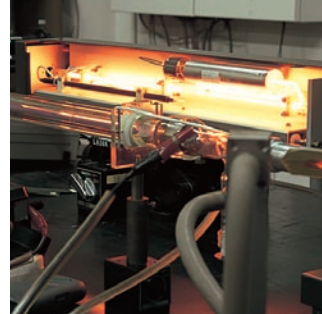
情報理論やデジタル回路などのコンピュータ工学の基礎知識を習得するとともに、デジタル信号処理、デジタル情報の伝送や圧縮などの情報通信ネットワーク技術の基本的な事項について学びます。

■通信工学実験

通信工学の基礎を養うことを目的として、各種電子回路の基本的な実験から、「アンテナの製作と特性測定」や「AM受信機の組立および性能評価」等のようなユニークな実験も行います。



卒業研究 (通信材料工学研究室): 原子間力顕微鏡による観察実験



卒業研究 (通信基礎工学研究室): 高出力ガスレーザーを用いた通信システムの実験

電気磁気学演習: 通信工学の基礎を学び、応用科目の理解につなげる。



科目区分	授業科目	単位数
必修 〔修得単位数38単位〕	基礎電磁気学	2
	電磁気学	2
	基礎電気回路	2
	電気回路	2
	電気通信数学	2
	電子理論	2
	電子回路Ⅰ	2
	通信工学Ⅰ	2
	通信工学Ⅱ	2
	光波工学Ⅰ	2
	電波工学Ⅰ	2
	通信材料Ⅰ	2
	光通信工学	2
	基礎電磁気学演習	1
	基礎電気回路演習	1
電磁気学演習	1	
通信工学実験Ⅰ	1	
通信工学実験Ⅱ	1	
通信工学実験Ⅲ	1	
卒業研究	6	
専門科目 〔最低修得単位数54単位〕	コンピュータ工学	2
	通信計測	2
	通信方式学	2
	情報理論	2
	光波工学Ⅱ	2
	電波工学Ⅱ	2
	光情報通信ネットワーク	2
	通信伝送工学	2
	レーダ工学	2
	波動工学	2
電波航法工学	2	
ディジタル信号処理	2	
選択 〔修得単位数10単位〕	応用通信工学	2
	電子回路Ⅱ	2
	応用プログラミング	2
	電波法	2
	通信材料Ⅱ	2
	光電波応用計測	2
	通信工学基礎英語	2
通信工学英語講義	2	
特別講義	1~2	
理工学専攻他学科の専門科目		

※ 授業科目は年度によって変わることがあります。

情報化社会の仕組みを科学する。

情報工学科

情報は私たちの利用可能な資源です。様々な手段や装置により入手した情報を整理して、「使える情報」へと加工します。情報工学科では、情報の収集から整理・蓄積、ネットワークを利用した交換までを、最新の技術や考え方を利用して、より速く、少ない時間で、また少ない資源で実現することを研究しています。コンピュータや様々なセンサ、ネットワークを使って、情報関連分野について、基盤となる数学やアルゴリズム、プログラミングからロボットやネットワークなどの最新技術まで広範な学習が可能です。



情報工学実験Ⅰ：再構成可能素子（CPLD）によるプログラミングとハードウェア（IO）の制御の実習。実験では学生への個別指導が行なわれる。

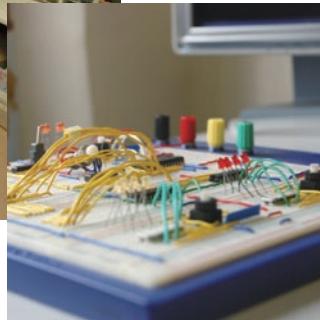
何を学ぶ？どう学ぶ？

- 2学年ではコンピュータの基礎、つまり、「コンピュータとはなにか？」から学びます。コンピュータの構成、プログラムがどのように処理されるか、また、プログラミング言語であるC言語を学習します。
- 3学年ではコンピュータを用いてアルゴリズム論や数値解析等を学習し、コンピュータを使いこなして問題を解決する能力を高めます。
- 4学年では3学年までに学んだ知識と各自の興味に基づいてテーマを絞り、卒業研究を行ないます。





実験は研究科学生とともに進められていく。



電算機講義室で実施される授業も多い。また、数学を専門的に学ぶ道も開かれている。

主な専門科目とその概要

■計算機システム概論

計算機システムの構成・動作原理、及びアセンブラプログラミングの基礎を修得します。

■プログラミング言語

アプリケーションを開発するために必要なプログラミング言語の基礎を学びます。

■制御システム論 I

ロボットなどの制御装置を有するシステムの特性とその安定性について学びます。

■生命と情報

時代を切り開くデザインの規範とするべく、生命が生み出す豊かな情報システムを学びます。

■オペレーションズ・リサーチ概論

数値モデルや IT ツールを用いて様々な意思決定問題を解くための科学的手法を学びます。

■人工知能

人間、組織、社会の知能はどこから生まれ、どのような形で存在するのかについて学びます。

■情報セキュリティ概論

コンピュータシステムや大切な情報を保護するためのセキュリティ関連技術を学びます。

■インターネットメディアコミュニケーション

ネットを媒介としたコミュニケーションの特性を、さまざまな事例を通して理解します。

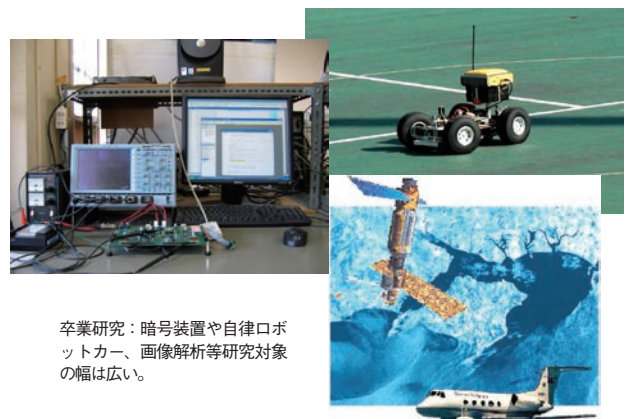
■数学通論

数学を正確に学ぶための基礎となる「集合論」を学びます。知識の量をふやすより「深く考える習慣をつける」ことが目標です。



科目区分	授業科目	単位数
必修 〔修得単位数33単位〕	基礎電磁気学	2
	基礎電気回路	2
	計算機システム概論	2
	情報と符号化	2
	情報数学	2
	論理回路	2
	プログラミング言語	2
	オペレーティングシステム	2
	数値計算	2
	制御システム論 I	2
	基礎電磁気学演習 I	1
	基礎電気回路演習 I	1
	情報工学演習 I	1
	情報工学演習 II	1
情報工学演習 III	1	
情報工学実験 I	1	
情報工学実験 II	1	
卒業研究	6	
専門科目 〔最低修得単位数54単位〕	生命と情報	2
	オペレーションズ・リサーチ概論	2
	人工知能	2
	コンピュータネットワーク	2
	アルゴリズムとデータ構造	2
	コンパイラ	2
	エージェントモデル	2
	オペレーションズ・リサーチ応用	2
	情報セキュリティ概論	2
	数学通論	2
	解析学 I	2
	代数学 I	2
	幾何学 I	2
	応用数学	2
解析学 II	2	
代数学 II	2	
幾何学 II	2	
選択 必修 〔修得単位数12単位〕	情報工学英語	2
	英語論文講読	2
	インターネットメディアコミュニケーション	2
	制御システム論 II	2
	ソフトウェア工学	2
	データベース論	2
	生物体計算	2
	メディア情報処理	2
	コンピュータ・シミュレーション	2
	代数学入門	2
	数理統計入門	2
特別講義	1~2	
選択 任意 〔修得単位数任意〕	理工学専攻他学科の専門科目	

※ 授業科目は年度によって変わることがあります。



卒業研究：暗号装置や自律ロボットカー、画像解析等研究対象の幅は広い。

材料に生き、材料と共に在る材料の専門学科。

機能材料工学科

物質に優れた性質が見いだされ、我々が利用する時、その物質は材料と呼ばれます。機能材料工学科は、材質、すなわち材料の特徴ある性質を実験と理論から知り、利用しようとする分野を系統的に学習することのできる学科です。

総合的な観点から材料を理解し、先端的应用研究まで対処できる人材を育成するため、材料設計、材料創製、材料評価、金属材料、電子材料、機能材料の六つの分野で教育をおこなっています。材料を制する者が科学技術を制するという気概で教育・研究をおこなっています。



機能材料工学実験：金属および半導体の電気的測定。材料の電気的性質の根本となる概念や法則を実験を通して学びます。

何を学ぶ? どう学ぶ? ●物質を構成する原子やイオン、分子というミクロの構造、さらに粒子の集合体としてのマクロの性質から、物質について本質的な理解ができるように講義が行われます。

4学年の卒業研究では、圧力-電気変換材料、光-電気変換材料、無機薄膜や有機単分子膜の機能の追求、軽量で高強度や機能を有する複合材料の研究、耐熱温度3000℃の炭素材料の研究、高温焼成や超高压衝撃処理による新化合物の探索、航空機材料として名高いジュラルミンの経年変化、核融合炉材料や金属結晶の研究などについて、学生は自由にテーマを選び、教官とマンツーマンで研究を進めます。

材料の基礎的な性質の理解と解明、さらに先端的な材料の知識や応用研究を通して“材料を見る確かな目”が養われます。





材料英語講読：ゼミ形式で卒業研究に必要な高度な学習や英語論文などを輪読します。

主な専門科目とその概要

■機能材料工学概論

専門分野の導入科目として、実用材料の機能と特性について学びます。身の回りのいろいろな機器がどのような材料で構成されているのかを体験的に学びます。

■基礎電磁気学

電気の本質を理解するために、主に静電界について基本法則を学びます。

■基礎電気回路

材料の電気的性質を評価するために、直流回路や交流回路の具体例を挙げて電気回路の基礎を学びます。

■電磁理論

電磁気学に続けて電磁誘導や動電磁界について学習し、電磁波の基礎を学びます。

■材料熱力学

熱と仕事のエネルギーに関する基本法則から、物質合成に必要な化学反応や相変化まで系統的に学びます。

■固体物性

固体の結晶構造やミクロな原子間の結合状態の特徴を学び、マクロな電気的・磁気的特性を学習します。また、結晶内の電子の振る舞いと絶縁体・半導体・金属の関係を学びます。

■電気化学

低エネルギー社会や循環型社会を実現するためのバッテリーや触媒反応の開発が進んでいます。デバイス化に必要な電気化学の基礎を学びます。

■材料力学

種々の用途に使われる材料の変位や変形について学びます。

■材料評価学

各種材料の特性の評価法および原理について学びます。

■結晶工学

原子配列の対称性や固体の結晶構造を理解し、結晶による回折現象の基礎を学びます。

■種々の材料学

エネルギー材料、複合材料、光機能材料、電子材料、環境対応材料について、基礎から応用まで幅広く学びます。人類が直面しているエネルギーや環境問題に対応するために、エコマテリアル、太陽電池、ナノテクノロジーなどに関連する最先端の材料科学について学びます。



機能材料工学実験：実際に材料を合成し、その特性を測定します。



機能材料工学実験：金属の電気化学的特性を測定します。



固体物性Ⅱ：材料中の電子の振る舞いについて学び、新材料の開発をおこなうための理論を習得します。



科目区分	授業科目	単位数	
必修 〔修得単位数32単位〕	基礎電磁気学	2	
	基礎電磁気学演習	1	
	基礎電気回路	2	
	基礎電気回路演習	1	
	機能材料工学概論	2	
	材料数学	2	
	電磁理論	2	
	コンピュータ概論	2	
	材料熱力学Ⅰ	2	
	材料熱力学Ⅱ	2	
専門科目 〔最低修得単位数54単位〕	固体物性Ⅰ	2	
	固体物性Ⅱ	2	
	電子物性	2	
	機能材料工学実験Ⅰ	1	
	機能材料工学実験Ⅱ	1	
	卒業研究	6	
	選択必修 〔修得単位数10単位〕	電気化学	2
		結晶工学	2
		半導体工学	2
		材料評価学	2
材料力学		2	
エネルギー材料		2	
環境対応材料		2	
光物性		2	
電子材料		2	
複合材料		2	
選択	光機能材料	2	
	材料科学英語	2	
	材料英語講読	2	
	特別講義	1~2	
理工学専攻他学科の専門科目			

※ 授業科目は年度によって変わることがあります。

日用品から宇宙ロケットまで「もの創り」を学ぶ。

機械工学科

機械工学は、私たちの身の回りにある家電製品をはじめ、コンピュータを組み込んだインテリジェント機器、エンジンや自動車などの工業製品からロケットなどの宇宙システムまで、あらゆる機械構造システムを生み出す「もの創り」の学問です。

熱、流体、強度など機械工学の基礎科目から、急速に発展してきたエレクトロニクス、メカトロニクス、新素材などの先端科目まで、基礎理論と応用を組み込んで体系的に学び、知的想像力に富み、かつ合理的で柔軟な思考力を持つ人材の育成を目的としています。



卒業研究（自動車実験室）：模型車両を使った実験により軟らかい地面での走行性を調べる。

何を学ぶ？どう学ぶ？ ●1. 機械発展のための自然現象、原理の計測・解析
流体の自然な流れの追求による車体の進歩、振り子による超高層ビル、大架橋の揺れ防止など、自然法則に対する深い造詣は機械発展のキー技術です。
2. 機械高度化のための制御
エコカーやABS、ロボティクス、半導体超微細加工やナノレベルの材料生成などの制御技術を学びます。
3. コンピュータ応用機械技術
現象を計測・解析し、機械を制御するためのコンピュータの活用を学びます。
4. 「もの創り」の基本を演習
設計計算、CAD、工作機械など、機械技術の基本である「もの創り」工程を体験修得します。



卒業研究（制御加工実験室）：大型基板用超精密研磨装置の開発を通して精密加工を学ぶ。

主な専門科目とその概要

■熱力学

熱エネルギーと動力との関係を学習し、応用としてガソリンエンジンなどの熱機関の原理を修得します。

■流体力学

流体の物理的性質を理解し、空中、水中を推進する原理を学び、流体からエネルギーを取り出す原理を学びます。

■材料力学

材料の強さと変形に対する考え方を学び、構造物や機械を設計する技術者としての基礎知識を養います。

■機械力学

機械とこれらを構成する要素および部材の振動現象を解析的かつ物理的にとらえる能力を養います。

■機械材料

機械材料の基礎知識について、代表的な金属やセラミックスから新素材やナノマテリアルまで幅広く修得します。

■制御工学

動的システムの基礎概念について、フィードバック系を中心に周波数領域での取り扱い方を修得します。

■自動車工学

エンジン特性や走行性能および振動と乗り心地から操縦安定性までの基礎知識を習得します。

■精密加工

工業製品の表面を高精度に仕上げる切削、研削、研磨に関する精密加工の基礎知識を学び、加工のメカニズムや加工現象について修得します。

■メカトロニクス

物体位置を検出し、所望の動作をさせるフィードバック技術の原理を学びます。磁気浮上列車をまねた砲丸球の浮上とHDD高速位置決めを演習します。

■システム制御

実システムで実際に利用されている、システム制御技術の基礎的な概念について学びます。

■機械設計製図

基礎科目で学んだ知識を駆使して設計計算を行い、コンピュータによって設計図面に表現します。概念図、組立図、部品図と「もの創り」現場を仮想体験します。

■機械工学実験

座学の知識およびその関連性を深めるとともに、各教科の実際の現象や各種機械の性能評価、測定機器の取扱い方、データ整理法などを体験します。

■コンピュータ演習

コンピュータの基礎知識について学び、それを動かすソフトウェアの仕組みやプログラミングの技法を演習を通じて修得します。

■機械工作実習

各種の工作機械や生産設備を使用し、材料がその原型形状を変えながら機械部品や製品になる工程を実際に体験します。



卒業研究（機械力学実験室）：振り子を使った振動伝搬の実験



卒業研究（機械材料実験室）：PAS (Plasma Activated Sintering) 装置を用いたセラミック粉末の加圧焼結実験。



卒業研究（計測制御実験室）：RCヘリコプタの飛行制御実験のための模型諸元計測

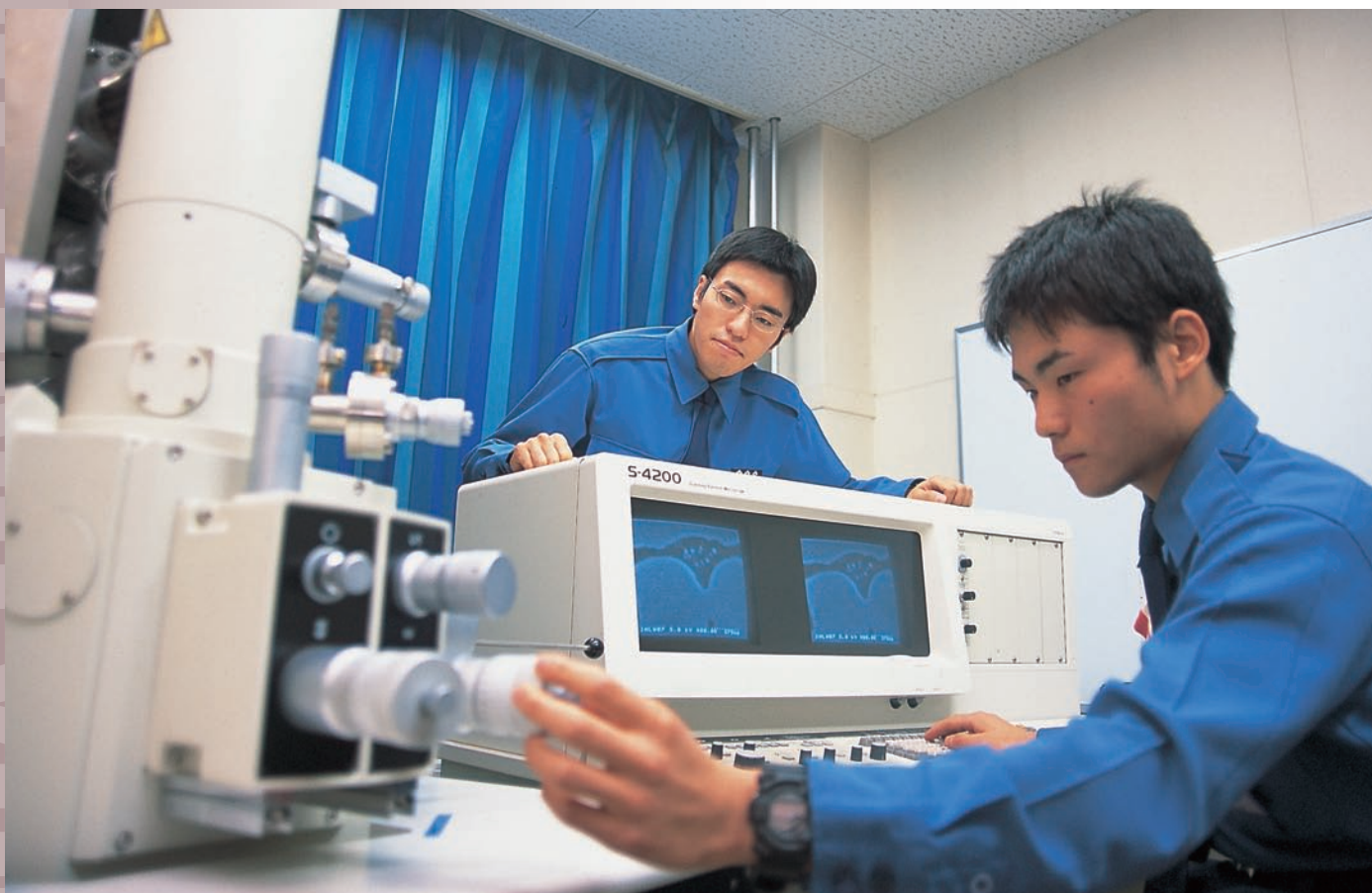
科目区分	授業科目	単位数	
必修 〔修得単位数33単位〕	機械工学総論	2	
	熱力学	2	
	流体力学Ⅰ	2	
	材料力学Ⅰ	2	
	機械材料	2	
	機械力学Ⅰ	2	
	要素及び機構学	2	
	制御工学Ⅰ	2	
	計測工学	2	
	加工工学	2	
	コンピュータ演習Ⅰ	1	
	機械工学演習Ⅰ	1	
専門科目 〔最低修得単位数54単位〕	機械工学演習Ⅱ	1	
	機械設計製図Ⅰ	1	
	機械設計製図Ⅱ	1	
	機械工作実習	1	
	機械工学実験	1	
	卒業研究	6	
	選択必修 〔修得単位数12単位〕	伝熱工学	2
		流体力学Ⅱ	2
		材料力学Ⅱ	2
		機械力学Ⅱ	2
		材料強度	2
		自動車工学	2
精密加工		2	
制御工学Ⅱ		2	
選択		コンピュータ応用解析	2
		熱機関	2
		メカトロニクス	2
		熱流体計測	2
	ターボ機械	2	
	微細加工	2	
	強度設計	2	
	ビークルダイナミクス	2	
	システム制御	2	
	材料プロセス	2	
	特別講義	1~2	
	専門英語Ⅰ(機械・機械システム)	2	
専門英語Ⅱ(機械・機械システム)	2		
理工学専攻他学科の専門科目			

※授業科目は年度によって変わることがあります。

機械システムを学び、最新の装備品を使いこなす。

機械システム工学科

機械システム工学科では、幹部自衛官として最新の装備品を運用し、また、将来装備品の開発に携わることができる知識・技術的判断力と柔軟な発想を育てることを教育目標としています。このため本学科では、力学、制御、熱エネルギー、流体、材料、加工、船舶・海洋など機械工学の基礎知識を授けるとともに、実験、演習、実習を重視し、設計製図や卒業研究を通じて最新のロボット、コンピュータ応用技術やエンジンなどの機械システムに関する理論と応用について教育し、これを統合・体系化できる能力を養成します。



卒業研究（構造材料実験室）：50万倍まで拡大できる電子顕微鏡を使い、熱などによる物質の変化を観察する。

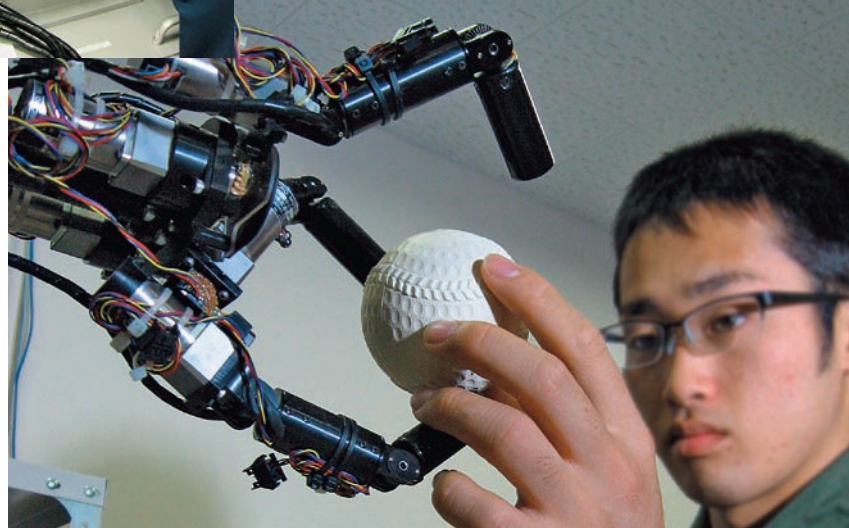
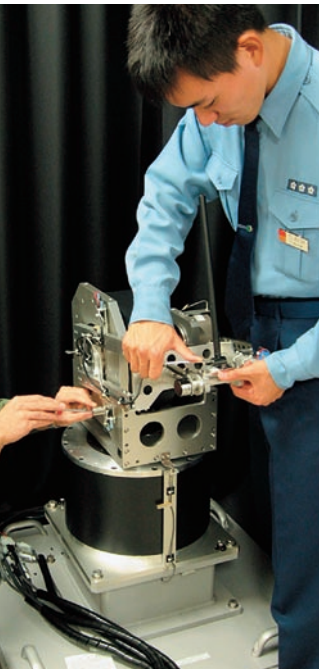
何を学ぶ？どう学ぶ？ ●基礎学問として、①熱力学、流体力学、材料力学、機械力学の4力学、②制御工学と機械運動学、③機械材料と機械工作法、④コンピュータによる解析及び設計、等について学ぶとともに、工作実習や実験を通じ、実際に物に触れて「知識を確認」します。

また、学生の興味に基づく選択によって、⑤ガソリンエンジンやガスタービンなどの原理と構造、⑥流体機器及び油圧制御システム、⑦ロボット・メカトロニクス、⑧先端材料とその創成法及び精密加工技術、⑨海洋構造物や艦艇に関する流体・構造力学等の教育を受けることが出来ます。

卒業研究では研究科の学生と一緒に最新の研究課題に取り組み、技術的諸問題の解決法と研究成果をまとめ、発表する力を養います。



卒業研究(熱エネルギー工学実験室):
ジェットエンジン、スターリングエンジン
などの燃焼実験。



主な専門科目とその概要

■熱力学

熱機関における動力の発生メカニズムを理解する上で必要となる原理、法則、現象を学びます。また、実際の熱機関や冷凍機の基本動作に関する知識を修得します。

■流体力学

流体に関する力学を学習することによって、流体機械や機械システムの内部および外部の流れを理解できるよう指導します。

■機械力学

機械の振動を中心とした動的問題を把握するための知識、解析能力を付与します。

■制御工学

制御工学の基礎知識について、制御系の解析・設計からロボットや装備品への応用まで幅広く修得します。

■材料力学

自動車や船などの構造物や機械の設計の基本となる弾性はりの力学を中心に学びます。

■機械システム材料

金属材料についての基礎知識を学ぶとともに、炭素鋼について金属組織と機械的性質との関連をいくつかの具体例を挙げて議論します。

■機械工作

「物作り」の中心課題の一つである、機械工作の理論と実際について分かりやすく教育します。

■内燃機関

内燃機関の作動原理、構造、性能、改善等を学び、ものと基礎学問のつながり、エンジンの作動メカニズム、燃焼とエンジン性能の関係などを実機を用いて学びます。

■船舶工学

浮体静水力学、復原・動揺性能、船型学および船体構造のそれぞれについての知識を習得することを目標とします。

■ロボット・メカトロニクス

ロボット工学の基礎知識について、ロボットの機構、制御から最先端の知能ロボットまで幅広く修得します。

■コンピュータ応用解析

C言語及びmathematicaを用いてプログラミングの考え方を身につけ、あわせて数値計算のための手法を学ぶことを目標とします。

■機械システム実験

実験を通して、習得した各教科の実際の現象、測定機器の使い方、測定精度、データの整理法等について理解を深めます。

科目区分	授 業 科 目	単位数
必修 〔修得単位数32単位〕	流 体 力 学 I	2
	機 械 シ ス テ ム 運 動 学	2
	材 料 力 学 I	2
	熱 力 学	2
	機 械 シ ス テ ム 材 料 I	2
	機 械 力 学 I	2
	制 御 工 学 I	2
	計 測 工 学	2
	コ ン ピ ュ ー タ 応 用 解 析 I	2
	機 械 工 作	2
	機 械 シ ス テ ム 演 習 I	1
	機 械 シ ス テ ム 演 習 II	1
	機 械 シ ス テ ム 設 計 製 図 I	1
	機 械 シ ス テ ム 設 計 製 図 II	1
機 械 シ ス テ ム 工 作 実 習	1	
機 械 シ ス テ ム 実 験	1	
卒 業 研 究	6	
専門科目 〔最低修得単位数54単位〕	電 気 電 子 工 学	2
	機 械 シ ス テ ム 数 学	2
	流 体 力 学 II	2
	材 料 力 学 II	2
	機 械 シ ス テ ム 要 素 設 計	2
	内 燃 機 関	2
	船 舶 工 学 A	2
	流 体 機 械	2
	機 械 力 学 II	2
	機 械 シ ス テ ム 材 料 II	2
	船 舶 工 学 B	2
	コ ン ピ ュ ー タ 応 用 解 析 II	2
	制 御 工 学 II	2
	選択 〔修得単位数14単位〕	ガ ス タ ー ビ ン
精 密 加 工		2
艦 艇 工 学 特 論		2
艦 艇 工 学 概 論		2
高 温 強 度		2
ロ ボ ッ ト ・ メ カ ト ロ ニ ク ス		2
特 別 講 義 I (工 学 と 装 備 開 発)		2
特 別 講 義 II		1
専 門 英 語 I (機 械 ・ 機 械 シ ス テ ム)		2
専 門 英 語 II (機 械 ・ 機 械 シ ス テ ム)		2
理 工 学 専 攻 他 学 科 の 専 門 科 目		

※ 授業科目は年度によって変わることがあります。

卒業研究(制御工学実験室):自作ロボットアームハンドのコンピュータによる制御実験。

空と宇宙を飛ぶための知識とシミュレーション。

航空宇宙工学科

航空工学の基礎学問を十分修得し、加えて宇宙工学関連科目等を学びます。
 大気圏内外を飛行する航空機、飛翔体、ロケット等を対象とした9学問分野を展開、
 それぞれの分野における基礎的学理を系統的な講義、実験、演習プログラムにより教育します。
 航空機や人工衛星のような宇宙機等に関連した極限環境における諸問題を発見して、
 これらを創造的に解決する能力を養い、将来の航空宇宙技術の発展に
 十分対応できる柔軟性を持つ者を育成することを目的としています。



卒業研究（フライトシミュレータ実験室）：T-4練習機のフライトシミュレータ。急激に旋回すれば機体が破損するシミュレーションもプログラムされている。

何を学ぶ？どう学ぶ？●航空宇宙工学は多くの学問分野を有機的に統合して、航空機、ロケットやスペースシャトル等の飛行のためのシステムをまとめ上げることを明確な目的とした分野です。

このため航空宇宙工学科では、空気力学、航空原動機学、航空機力学、ヘリコプタ工学、飛行制御、航空機構造力学、宇宙航行、推進工学、航空宇宙工学設計の9分野を展開しています。

これら各分野の学理を十分に理解できるよう、各分野とも基礎的な科目・技術の講義から始まるようになっていきます。

そして、最終的には各学問分野が飛行のためのシステムを構成する上で果たしている役割や各学問分野間の相互の関連が理解できるように、系統的な講義、実験、演習プログラムのもとで学習します。



主な専門科目とその概要

■基礎空気力学

航空機に関係した空気など流体の流れと物体に作用する力の基礎的な部分を扱う学問です。

■航空熱力学

燃料の燃焼で発生する熱エネルギーによって生まれる動力や推進力の仕組みについて学びます。

■航空材料力学

飛行機の構造を外力によって伸びや曲げを生じる弾性的な棒や梁とみなし、これらの内部に生じる力の分布、外力と変形との関係、強度、剛性や安全性などの考え方の基礎を勉強します。

■空気力学 I

航空流体力学で学んだ空気の流れに関する基礎知識を基にし、翼などが空気の流れからどのような力を受けるのかということや理論的に性能を求める方法について講義します。

■航空宇宙エンジン序論

航空用および宇宙用のエンジンについて熱力学の視点から作動原理を学びます。

■航空機構造力学

飛行中に受ける荷重やそれに耐えるための飛行機の構造様式について学びます。また、材料力学で習った棒や梁を組み合わせた骨組み構造の基礎も勉強します。

■航空機力学

航空機の飛行に必要な基礎理論や飛行に関する原理および現象とともに、航空機がより良く飛行するために必要な安定性、操縦性、性能等の基本的な概念について学びます。

■高速空気力学

空気の圧縮性の概念、高速機まわりにできる衝撃波、膨張波の構造や性質に対する基礎知識等とともに、どのようにすれば理想的な高速飛行状態を作り上げられるかということを学びます。

■宇宙航行理論

宇宙船・人工衛星・宇宙ステーションの軌道などを実際的に分かりやすく、宇宙工学の基礎知識として楽しく学びます。

■航空制御工学 I

航空機や宇宙機への応用を考えながら制御工学の基礎を学びます。

■ヘリコプタ工学 I

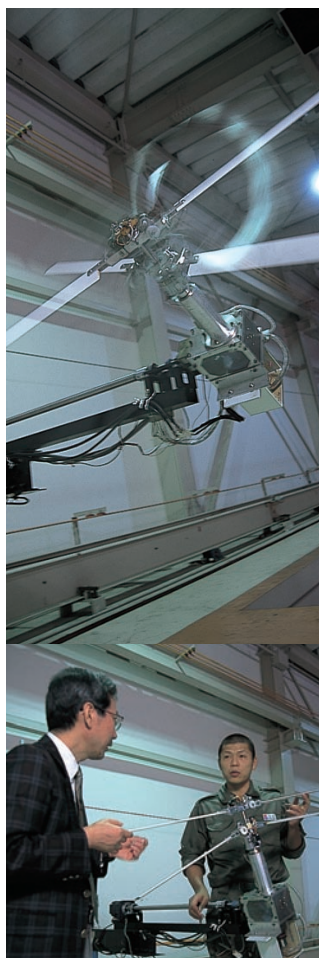
ヘリコプタとはどんな航空機なのかを、ロータの空気力学を重点に飛行機と対比しながら理解し、飛行原理や性能計算法の基礎を学びます。

■ロケット工学

ロケットエンジンがどのような原理で動くのか、どのような仕組みで成り立っているのかを学びます。

■航空システム設計、宇宙システム設計

航空機や宇宙機の機体設計や運用方法を学びます。



卒業研究（ヘリコプタ実験室）：ヘリコプタのロータに関する力学を、フリーフライト実験によって理解する。



科目区分	授業科目	単位数
必修 〔修得単位数32単位〕	基礎空気力学	2
	航空熱力学	2
	航空材料力学	2
	航空宇宙工学通論	2
	航空宇宙エンジン序論	2
	航空機力学	2
	宇宙航行理論	2
	航空制御工学 I	2
	ヘリコプタ工学 I	2
	衛星利用概論	2
	航空宇宙工学設計製図学	2
	航空宇宙工学演習 I	1
	航空宇宙工学演習 II	1
	航空宇宙工学演習 III	1
	航空宇宙工学実験	1
	卒業研究	6
専門科目 〔最低修得単位数54単位〕	空気力学 I	2
	航空機構造力学	2
	高速空気力学	2
	航空宇宙基礎数学	2
	航空機性能設計	2
	ロケット工学	2
	超音速航空ジェットエンジン	2
	コンピュータ解析	2
	航空制御工学 II	2
	宇宙環境利用	2
	ヘリコプタ工学 II	2
	航空システム設計	2
	航空宇宙機器学	2
	航空ジェットエンジン	2
	空気力学 II	2
	高速航空概論	2
航空宇宙構造設計	2	
ロケット工学通論	2	
航空飛翔体振動学	2	
飛行制御システム	2	
宇宙システム設計	2	
飛翔体誘導概論	2	
衛星設計	2	
専門英語 I (航空宇宙)	2	
専門英語 II (航空宇宙)	2	
特別講義	1~2	
理工学専攻他学科の専門科目		

※ 授業科目は年度によって変わることがあります。

卒業研究（低速風洞実験室）：ゲッチンゲン風洞で、航空機の空力特性を理解する。

地球をデザインする学問

建設環境工学科

建設環境工学(土木工学、Civil Engineering)とは、種々の公共施設を計画・設計・建設・管理することで、より良い生活環境を実現する「市民(Civilians)のために地球を造形する総合工学」です。地球を造形するには、工学技術はもちろん、地形・地質・気象・海象などの自然現象の理解、そこに暮らす人々や地球環境への配慮が必要です。さらに、多くの他分野の専門家の参加・協力を求めながら、プロジェクト全体を統率していくリーダーシップも求められます。

建設環境工学科では、基礎科目から応用科目までを段階的・体系的に展開し、研ぎ澄まされた専門知識・技能と、ゼネラリストとしての柔軟な思考能力の双方にバランスの取れた人材の育成を目標としています。

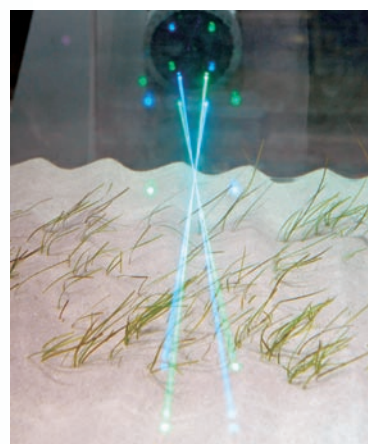


水理・土質実験：人工的に波を発生させ、水や土砂基盤の性質や運動を理解する。

何を学ぶ? どう学ぶ? ●道路、橋梁、港湾などの建設や国土・都市計画に関する理論および実際を学習する土木工学と、自然災害から人命を守る防災工学や、社会生活に関わる環境工学に関する幅広い教育を行います。

すなわち、構造物と土と水と環境問題のすべてに関連する総合工学の教育を通して、自然と調和した豊かな社会生活を確保するための知識と技術を学びます。

21世紀の自衛隊は、特に災害派遣や国連平和維持活動(PKO)において大きな貢献が期待されていますので、そんな場面で活躍できる人材の育成を重視しています。



沈水植性まわりの流れ

防災構造学：砂防構造物の実験



主な専門科目とその概要

■構造力学

弾性体の応力と変形の関係、力の釣合いなど、構造物の設計に必要な力学の基礎を学びます。

■水理学

水を利用し、また水の災害から生命や財産を守るために、水の性質や運動を理解します。

■土質力学

土の物理・化学的性質、分類法、地盤の強度、土中の水の流れ等を扱います。

■コンクリート材料工学、鉄筋コンクリート工学

コンクリートの材料特性を把握し、さらにコンクリート構造物の設計法を修得します。

■鋼構造学

規模の大きな構造物、複雑な構造物等に用いられる鋼構造の特徴と、その設計法について理解を深めます。

■建設施工学

切土盛土、コンクリート工事などの基本的な施工法、建設用機械の性能、工程管理手法を学びます。

■振動・耐震工学

地震、風、波浪等の動的な荷重による構造物の振動、および地震に耐える構造設計法を学習します。

■防災工学

自然災害の歴史、種類と発生機構、防災技術について講義すると共に、自衛隊と災害との関わりについても理解を深めます。

■海岸工学、河川工学

海岸および河川において、水によって与えられる便益と被害、ならびに影響・作用について学習します。

■土木計画学

建設環境工学における、目的性、合理性を持つ計画の立案法、計画評価法の基礎事項を修得します。

■交通工学

道路と社会の関わり、道路線形と舗装の設計法などを学びます。

■環境地盤工学

降水、地下水等の自然水を含めた地盤の環境問題に関する基礎知識を習得します。

■環境衛生工学

水質、大気汚染等に対する生活環境の保全・改善方法（上・下水道）に関する基礎知識を習得します。



環境地盤工学：水質測定



土壌の成分分析



社会基盤と自然環境との調和をはかる建設環境工学
(防衛大学校からの東京湾遠望)

科目区分	授業科目	単位数
必修 〔修得単位数37単位〕	材料力学	2
	流体力学	2
	測量学	2
	測量実習	1
	構造力学Ⅰ	2
	水理学Ⅰ	2
	コンクリート材料工学	2
	大規模災害対処計画論	2
	構造力学Ⅱ	2
	水理学Ⅱ	2
	土質力学Ⅰ	2
	鉄筋コンクリート工学	2
	構造・コンクリート実験	1
	土質力学Ⅱ	2
構造設計学・製図	2	
土質・水理実験	1	
建設環境工学総論	2	
卒業研究	6	
専門科目 〔最低修得単位数54単位〕	振動・耐震工学	2
	鋼構造学	2
	海岸工学	2
	防災構造学	2
	環境衛生工学	2
	基礎工学	2
	建設施工学	2
	震災工学	2
	河川工学	2
	交通工学	2
選択 〔最低修得単位数10単位〕	大規模災害概論	2
	数値解析演習	1
	構造力学Ⅰ演習	1
	水理学Ⅰ演習	1
	構造力学Ⅱ演習	1
	水理学Ⅱ演習	1
	土質力学Ⅰ演習	1
	鉄筋コンクリート工学演習	1
	土質力学Ⅱ演習	1
	建築工学	2
環境地盤工学	2	
土木技術英語Ⅰ	4	
土木技術英語Ⅱ	4	
特別講義	1~2	
理工学専攻他学科の専門科目		

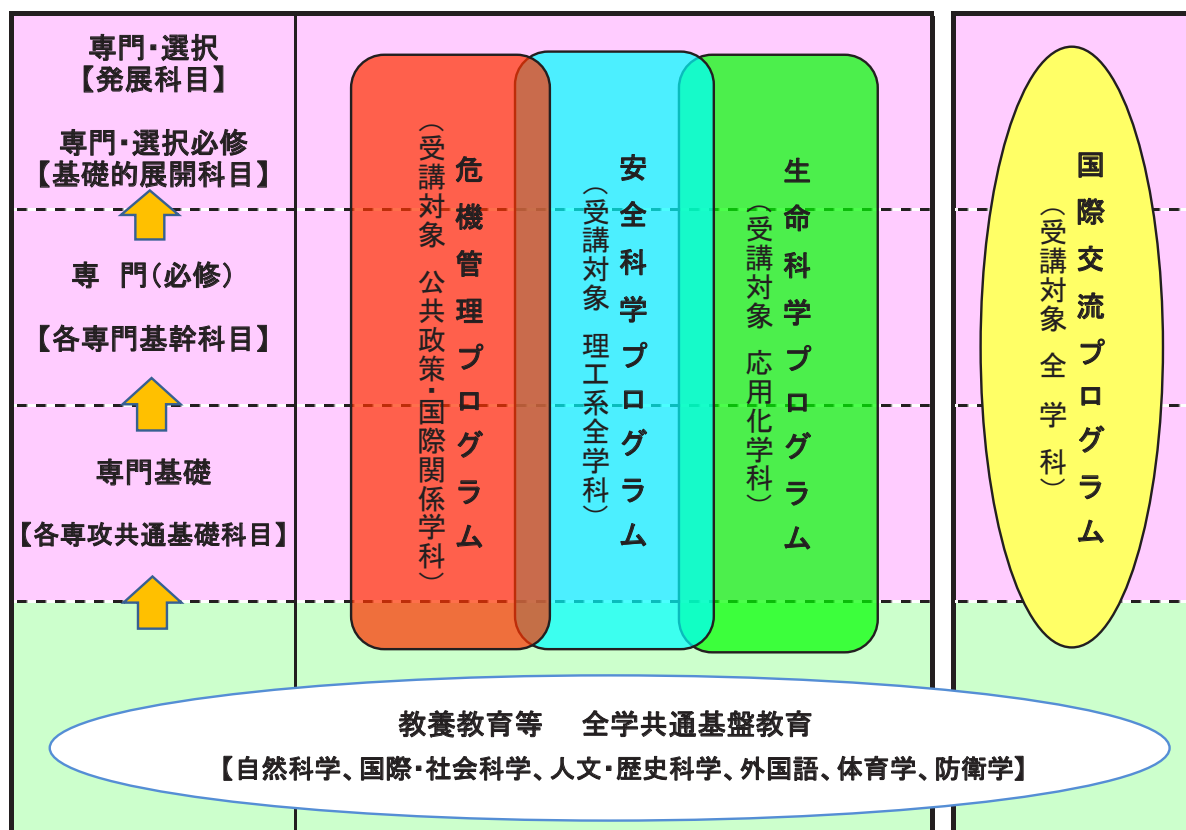
※ 授業科目は年度によって変わることがあります。



20世紀日本の建設技術の頂点：明石海峡大橋

新しい教育プログラムの誕生

人社系3学科、理工系11学科による専門教育以外に、人社系・理工系にまたがり、学科・学群を横断する柔軟な履修を可能とする新たな教育プログラムが、2012年度からスタートしています。各学科に設置されている授業科目を有機的にリンクさせ、防衛大学校の特徴ある専門分野を結集させた新たな領域の教育プログラムです。新教育プログラムは、「危機管理」「安全科学」「生命科学」「国際交流」の4つのプログラムです。学生は、既存の14学科のいずれかを専攻しながら、学科の枠を越えて設けられた新たな領域を体系的に履修することで、学際的な視点から専門知識の修得と総合的な問題解決能力を高めることを目的としています。これらのプログラムを履修する学生は、プログラムごとに指定された講義科目群の中から必要な授業科目を、2年から4年次の3年間継続して履修します。



1 危機管理プログラム

21世紀の現代においては、安全保障環境の不確実性、不透明性、自衛隊の任務の地理的、機能的な拡大等が加速度的に進行しています。こうした事態への対応力を高めるため、危機の予測、回避、対処、再発防止に関する危機管理学と、それを技術的に支える方法論について学習します。

(主なプログラム科目)

「危機リスク管理原論」、「危機管理政策」、「危機事案研究」、「災害組織論」
「化学災害概論」、「バイオセキュリティ論」、「防災工学」、「土木地理学」

2 安全科学プログラム

防衛・防災システムが非常事態において正しく機能するためには、システム全体が健全な状態に保たれていなくてはなりません。そこで、従来の自然科学、工学、人文社会科学や身体運動の科学といった枠を超え、非常事態という特殊かつ極限的な環境において、人間を含めた組織、機能の安全を保障するための総合的な科学技術体系を構築するための基礎について学びます。

(主なプログラム科目)

「安全科学総論」、「放射線計測」、「システム工学」、「情報セキュリティ概論」、「強度設計」、「船舶工学」、「飛行制御システム」、「大規模災害概論」、「身体運動の科学」

3 生命科学プログラム

近代科学の発展は、他方で危険な微生物や化学物質による安全保障上の新たな脅威をもたらしています。こうした生命環境の変化に対応し、生物・化学兵器対処や、汚染の除去といった自衛隊に新たに求められる任務遂行に必要な、生命化学等に関する基本知識と生命科学分野における課題を化学の基礎に基づいて理解し解決するための基礎を学びます。

(主なプログラム科目)

「生命化学」、「生体分子化学」、「微生物学」、「防災化学」、「生命と情報」
「科学と倫理」、「危機管理特論」

4 国際交流プログラム

自衛隊活動の国際化に対応して、多文化理解の素養や国際的なコミュニケーション能力を集中的に習得します。具体的には、さまざまな国々の文化、英語以外の第2外国語の会話を重視した基礎知識、そしてインターネットとともに発達した新しいメディアによる多様な国際的なコミュニケーションの可能性などを学びます。

(主なプログラム科目)

「多文化共生論」、「異文化コミュニケーション概論」、「日本文化史」
「地域研究」、「地域情報学」、「インターネットメディアコミュニケーション」
「独・仏・中・露・朝鮮・アラビア・ポルトガル語特講」

乗り越えろ、自分自身。脱ぎ捨てる、自分の甘さ。

訓練課程

共通訓練

■ 目的は、「基礎的な訓練を通じて、気力、体力を向上させること」。また、陸上・海上・航空の各自衛隊の機能について理解を深めることも目的の一つです。

● 第1学年時

敬礼や団体行動の基礎となる基本教練、射撃訓練のほか、夏の定期訓練では8キロ遠泳訓練、また、秋の定期訓練は、北富士演習場において約1週間行われます。陸上・海上・航空の各自衛隊研修なども行われます。

● 第2学年時

冬に約1週間のスキー訓練が定期訓練として行われます。

● 第3学年時

第2次世界大戦において、日米最大の激戦地であった硫黄島の研修を行い、過去の戦跡に学びます。

また、校内で災害対処のための訓練を行います。

● 第4学年時

教育法として入校直後の1学年にすべての行動の基本となる基本教練を教えます。また、校内で拳銃の実弾射撃を行います。



スキー訓練（新潟県妙高高原）



遠泳訓練（横須賀沖）



硫黄島の研修



秋季定期訓練（北富士演習場）



災害対処訓練（校内）

訓練課程には、主に第1学年時に履修する共通訓練と、第2学年から陸上・海上・航空の各要員に指定され、この要員区分別に履修する専門訓練があります。第2・4学年は毎週1回2時間、第1・3学年は隔週1回2時間の「訓練課程教育」と春・夏・秋・冬の定期訓練(年間約6週間)があります。訓練時間は4年間を通して約1,005時間になります。

専門訓練

■「陸上・海上・航空の各要員ごとに基礎訓練と体験訓練を行い、プロとしての資質を育成すること」が目的です。



戦闘訓練



陸上要員訓練

第2～4学年の要員訓練の主な目的は、部隊を動かすための知識や技術の習得です。指揮官によって部隊の動きがいかにか変わるかを身をもって知ることになります。

●第2学年

校内及び新潟県の関山演習場等において7月上旬から1ヶ月の間、訓練を行います。そこでは射撃・戦闘訓練などの基本訓練を行います。

●第3学年

全国各地の部隊へ派遣されて、約1ヶ月間、第一線の部隊を研修するとともに隊員と起居を共にして、防大では教わらない、第一線部隊の訓練を実習します。

●第4学年

北海道の東千歳演習場等において、7月上旬から1ヶ月間、射撃や小部隊の指揮・運用などの戦闘訓練を受けます。また最終の総合訓練として、攻撃行動や防御行動など、連続4日間にわたる実戦さながらの訓練を受けます。



巡航訓練(クルーザーヨット)



海上要員訓練

防衛大学校卒業後も幹部候補生学校や遠洋航海を経て、船乗りやパイロットなどの職種ごとの教育を行い各種分野の指揮官になります。防衛大学校の4年間の訓練や実習は、その基盤になるものです。

●第2学年

「ポンド」と呼ばれる走水海上訓練場で、カッター及びクルーザー訓練などが行われ、船乗りとしての基礎を学びます。また、練習艦での乗艦実習のほか、戦前からの歴史的資料が保存されている広島県江田島にある海上自衛隊第1術科学校、幹部候補生学校(旧海軍兵学校)、教育参考館を研修します。

●第3学年

護衛艦に乗り込んで各地を訪問する乗艦実習と海上自衛隊航空部隊の実習があります。この実習を通して、部隊指揮官がいかにか多くの隊員を指揮・統率しているかを勉強します。また、クルーザーヨットを使用した巡航訓練を行い、慣海性を養成します。

●第4学年

シーマンシップを養成するために、機動艇を使用した巡航訓練や最新の護衛艦や潜水艦での実習を行い部隊における勤務の礎を築きます。



グライダー訓練



航空要員訓練

航空要員訓練では操縦や整備など各専門分野を広く知ることが大きな目的です。航空要員はこれら専門訓練により、パイロット・整備・管制など、自分の進むべき専門分野を把握することになります。部隊実習では戦闘機をはじめ、練習機や輸送機に体験搭乗する機会もあり、パイロット志望の学生はもちろん、整備志望などの学生にも大変貴重な体験になります。

●第2学年

グライダーを使用して、航空機運用の基本を訓練するほか、航法、気象などの訓練を行います。

夏季定期訓練では、小牧、入間、美保の輸送機部隊で多座席航空機搭乗を行います。

●第3学年

千歳、三沢、百里、小松、築城、新田原及び那覇の戦闘機部隊で航空団実習を行います。

●第4学年

グライダーを使用して、航空機運用の総合的な訓練を行います。また、警戒管制部隊の研修を行います。

ここにしかないもの、ここでしか体験できないもの。防大ならではの行事。

年間行事

年間を通じて防衛大学校オリジナルの行事が目白押し。他の一般大学では決して経験することのできないこれら行事を通じて、防大生は心を磨き、友情を深め、そして自分自身の殻を打ち破ります。

A P R I L

4

- 入校式
- カッター競技会
第2学年に、進級して間もなくカッター競技会が実施されます。
- 春季定期訓練



入校式



カッター競技会

A U G U S T

8

- 夏季休暇
主に帰省や校友会活動に費やしますが、海外に行く学生もいます。



校友会夏合宿 (ラグビー部)

S E P T E M B E R

9

- 夏季競技会
ひと夏の成果を、大隊ごとに競います。
- 前期定期試験

前期定期試験



夏季競技会 (水泳大会)

J U L Y

7

- 夏季定期訓練
約1ヶ月行われます
- 遠泳 (8km)
第1学年にとって最初の試練です。



夏季定期訓練



遠泳

O C T O B E R

10

- 秋季定期訓練

N O V E M B E R

11

■ 開校記念祭

日頃の訓練や学習成果を見せる、いわゆる学校祭ですが、訓練展示、観閲式や紅太鼓(女子学生による和太鼓の演奏)など、防大ならではの競技や展示が行われます。



棒倒し



紅太鼓



演劇祭



模擬店



観閲式



訓練展示

J A N U A R Y

1

■ 冬季定期訓練



冬季定期訓練 (第2学年)

F E B R U A R Y

2

■ 後期定期試験

M A R C H

3

■ 卒業ダンスパーティー

第4学年を対象にしたダンスパーティーが学生主催で行われます。

■ 持続走競技会(第4学年)

■ 断郊競技会(第3学年)

旺盛な気力と団結力を養うために断郊競技会(クロスカントリー)を実施。チーム成績は最も遅い学生の時間で決まるので、お互いに励まし合いながらチーム一丸となってゴールを目指します。

■ 卒業式

帽子を天井に向かって投げ上げるシーンで有名。4年間の苦勞が実る一日です。



卒業ダンスパーティー



断郊競技会(クロスカントリー)



持続走競技会



卒業式

国際交流

●世界各国の士官学校への留学生の派遣及び受け入れ

○派遣

海外留学は、将来の幹部自衛官として必要な国際的視野に立脚した識見を養うとともに、進展性のある資質を育成することを目的として行っています。

★短期(1~3週間程度)

第3・4学年の本科学生を対象として、年間約40名(短期・長期合わせて)が成績や語学力を考慮した上で、1~3週間程度、アメリカ・イギリス・シンガポール・タイ・中国の各軍士官学校に派遣されます。

★長期(約4ヵ月間)

アメリカ・カナダ・フランス・ドイツ・オーストラリア・カタールの各軍士官学校。
大韓民国陸・海軍士官学校

★長期(約1ヵ年間)

大韓民国空軍士官学校。



○受け入れ

防衛大学校では、士官候補生等の留学生の受け入れや、短期的な研修の受け入れを行い、国際交流を図っています。

★留学生の受け入れ

インドネシア・大韓民国・カンボジア・タイ・東ティモール・フィリピン・ベトナム・モンゴルの8ヶ国の士官候補生を留学生として受け入れ、日本の学生同様に教育訓練を行っています。在校学生は現在約90名(本科)であり、本科のほか、研究科に在籍している留学生もいます。

★研修生の受け入れ

アメリカ・オーストラリア・大韓民国・シンガポール・タイ・ドイツ及びフランスの各士官候補生が毎年数週間又は4ヶ月間の研修に来ています。



AL EXCHANGE

●国際士官候補生会議(ICC)

●ICCとは

ICCとは、国際士官候補生会議 (International Cadets' Conference) のことである。

防衛大学校主催により、諸外国の士官候補生を招へいして国際会議を実施し、国際情勢及び安全保障に関する討議等を行い、各国と我が国の将来の安全保障につながる相互理解と信頼関係の促進を目的としています。

アメリカ、イギリス、イタリア、インド、インドネシア、オーストラリア、カナダ、大韓民国、シンガポール、タイ、中国、チュニジア、ドイツ、フィリピン、フランス及びマレーシア等の国の士官候補生を招へいし、8日間程度の日程で行っています。

また、(1) 学生に対する国際交流の機会の付与 (国際感覚の醸成)、(2) 学生の国際的視野の拡大、国際情勢認識及び語学力の向上を重視しています。



ICCの歴史

●過去ICCの討議内容は以下のとおり行われました。

第1回から第3回

『包括的な安全保障』について

第4回

国際協力と人権、軍隊における女性の役割、21世紀において国連がなすべき役割について

第5回

21世紀における新たな脅威とその対応について

第6回

士官学校の現状と将来、将来のリーダーの理想像、及び文民と軍人の関係について

第7回から第9回

国際社会における軍隊、国際協力及び士官の役割と軍事専門学校の教育について

第10回

多極化された国際事情、特に冷戦後の安全保障について

第11回

地球環境と安全保障、人権問題と内戦干渉問題及び平和の構築と、これから各国がとるべき対応について

第12回

東アジアの安全保障、軍備管理の現状と課題、科学技術の進歩が軍隊に与える影響について

第13回

多様化する脅威への軍隊の対応とその新たな役割について

第14回

国際安全保障環境と士官候補生について

第15回

これからの国際秩序を考える



団体生活の中で飾りを脱ぎ捨てた時、リアルな自分が見えてくる。

■ 学生舎生活

防衛大学の学生は入校と同時に全員例外なく学生舎での団体生活を送ることになります。

学生舎では第1学年～第4学年まで2人ずつの8名で2室(寝室と自習室)を使用します。

学生舎には集会室、調理室、シャワー室、洗濯室などが完備されています。

学生舎での生活は、将来幹部自衛官となるべき資質を磨く場でもあります。したがって一般の学生寮とは異なる規則正しい生活を送ることになります。最初はそれまでの自由な生活と異なりとまどいや不安もあると思いますが、よき先輩や後輩、生涯にわたる、かけがえのない友人にも出逢える機会となります。また、海外からの留学生も学生舎生活を送っており、国際交流の場にもなっています。



洗面所



乾燥室



調理室



洗濯室



自習室：個人ごとに自習スペースがあります。



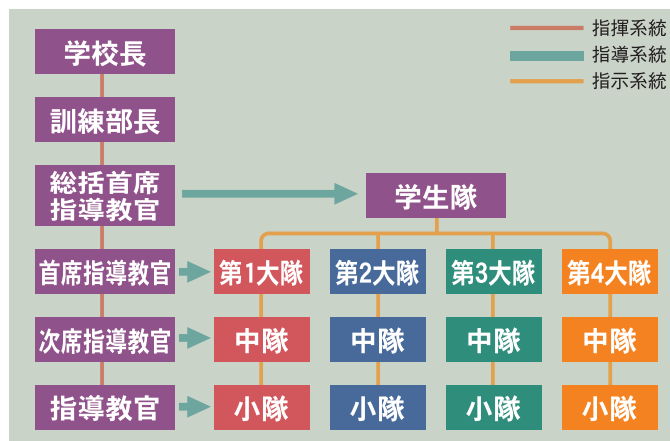
寝室：ベッドとロッカーが置かれています。

我(われ)を捨てることの困難さを知る。

学生隊

学生隊とは、学生相互の理解を深め、融和団結を図り、学生の共同生活を円滑にし、あわせて学生に部隊指揮及び業務処理の基礎的能力を修得させることを目的とした全学生をもって編成される学生組織です。防衛大学の学生は入校と同時に全員学生隊に所属することになります。

学生隊の運営は訓練部長や各指導教官(幹部自衛官)の指導のもとに各学生長、週番学生等によって自主的に行われています。また、教育や訓練、各種競技会など校内における行動や行事(水泳大会、開校記念祭など)は学生隊を主体として行われます。



学生隊は、4個大隊からなり、1個大隊は4個の中隊、1個中隊は3個の小隊で編成されています。(1個小隊約40名)



第1大隊旗(赤)



第2大隊旗(青)



第3大隊旗(緑)



第4大隊旗(橙)



観閲式(開校記念祭)における学生隊の行進

一生続く「友情」が、ここにある。

校友会活動

校友会とは、いわゆるクラブ活動のことです。スポーツと文化の両分野での活動を通じて友情を育み、気力・体力の向上と連帯感の養成を目指します。

校友会組織は委員会等、運動部、文化部、同好会に分かれており、各部等の多くは大学リーグ等に参加して他大学との試合など、交流も積極的に行っています。

学生は第1学年時に全員が希望する運動部に参加することになっており、あわせて文化部にも加入することができます。

■ 校友会一覧

運動部等	文化部等
応援団リーダー部	新聞委員会
短艇委員会	雑誌委員会
バスケットボール部	アカシア会(社交ダンス)
柔道部	放送委員会
ラグビー部	茶道部
サッカー部	弁論部
剣道部	英会話部
空手道部	写真映画研究部
バレーボール部	棋道部
卓球部	音楽部
陸上競技部	軍事史研究部
硬式庭球部	軽音楽部
硬式野球部	国際関係論研究部
射撃部	古典ギター部
山岳部	自動車同好会
水泳部	美術同好会
ハンドボール部	文芸同好会
アメリカンフットボール部	詩吟同好会
ヨット部	書道同好会
銃剣道部	生花同好会
グラライダー部	タイ文化研究同好会
ソフトテニス部	韓国文化研究同好会
ボクシング部	紅太鼓同好会
レスリング部	インドネシア文化研究同好会
ボート部	防衛学研究同好会
フイールドホッケー部	ベトナム文化研究同好会
ワンダーフォーゲル部	モンゴル文化研究同好会
パラスユート部	模型製作同好会
準硬式野球部	心理研究同好会
合気道部	コンピュータ研究同好会
体操部	カンボジア文化研究同好会
弓道部	ダーツ同好会
少林寺拳法部	東アイル文化研究同好会
フエシング部	
ウエトリフティング部	
相撲部	
バドミントン部	
居合道部	
儀仗隊	
吹奏楽部	
自転車競技部	



儀仗隊



空手道部



ワンダーフォーゲル部



水泳部 (水球部)



吹奏楽部



紅太鼓同好会



アカシア会 (社交ダンス)

「規則正しい生活」という緊張感に包まれる。

学生の日

防衛大学校では決められた日課に従って規則正しい生活が送られています。
防大生の多忙な1日を、起床から就寝まで時間を追って紹介します。

AM

6:00 起床

起床ラッパの音で一斉起床。5分で寝具を片付け、着替えを済ませて学生舎前に整列します。



6:05 日朝点呼

朝の人員を確認。この後乾布摩擦を行います。(女子はTシャツを着用)



6:10~6:30 清掃



6:35~7:20 朝食

セルフサービスでの食事。
朝はパンか米食が選べます。



8:00 国旗掲揚／朝礼

陸上競技場で行なわれた
合同朝礼での国旗掲揚風景です。
(通常は各学生舎前)



課業行進

整列して教場へ行進しながら
部隊行動の基礎を
修得します。

8:30~11:40 授業[1~4時限]

各教場で授業が行われます。



PM

12:00~ 昼食

全員が学生食堂に集合し、一斉に昼食
をとります。連絡事項の伝達、確認も同
時に行われます。



13:00 課業行進



13:15~16:25 授業[5~8時限]



課業終了~18:30

(17:30に国旗降下)

校友会活動



17:30~19:15 入浴



18:15~19:15 夕食

学生同士で談笑しながら、セルフサービ
スで食事をとります。



19:20~19:35 軽清掃

19:40 日夕点呼



洗濯や アイロンがけ等

身のまわりのことは自
分でを行います。



20:00~22:10 自習時間

自習室で各自勉強。



22:30 消灯 特に必要がある場合、02:00まで消灯を延長することができます。

CAREER

4年間の勉学生活の後に待っているもの。

卒業後の進路

防衛大学校という、厳しくも有意義な学生生活を終えた後には、自衛官任官への道が待っています。陸上要員は陸上自衛官(陸曹長)に、海上要員は海上自衛官(海曹長)に、航空要員は航空自衛官(空曹長)にそれぞれ任命され、幹部候補生として各自衛隊の幹部候補生学校に入校します。

陸上は約9ヶ月の幹部候補生学校での教育訓練と約3ヶ月の普通科隊付教育を経て、防衛大学校卒業後約1年で幹部自衛官(3等陸尉)に任命されます。

海上は約1年間の幹部候補生学校での教育訓練を経て幹部自衛官(3等海尉)に任命され、国内巡航を経て遠洋練習航海に出発します。

航空は約半年の幹部候補生学校での教育訓練と約半年の部隊勤務等を経て、防衛大学校卒業後約1年で幹部自衛官(3等空尉)に任命されます。

そして、その後は自衛隊の職域に応じた専門教育を受けながら幹部としての道を進みます。将来は各自の能力・努力に応じて重要な地位に就くことになります。

陸上自衛官 小隊長、中隊長、大隊長、連隊長などの指揮官、学校教官等及び陸上幕僚監部等司令部での勤務

海上自衛官 艦・艇長や哨戒機の機長、学校教官等及び海上幕僚監部等司令部での勤務

航空自衛官 戦闘機・輸送機パイロット、ミサイル・レーダー等運用指揮官、学校教官等及び航空幕僚監部等司令部での勤務

陸上・海上・航空自衛官共通職務 防衛大学校、内部部局、統合幕僚監部、情報本部、技術研究本部、装備施設本部、防衛監察本部等での勤務

その他に、防衛大学校研究科への進学(防衛省各機関の長の推薦を受けた者)や、国内大学院修士・博士課程入学、大学での研修、外国の軍学校などへの留学の機会もあります。



いわゆる大学院。ただし、推薦された者だけが学べる。

研究科

自衛隊の任務遂行に必要な高度の理論と応用についての知識や、これらに関する研究能力を修得させるための教育を行うことを目的としています。内容は、大学院設置基準の修士課程・博士課程に準拠しています。受験資格は部隊勤務を経て防衛省各機関の長が推薦した者に与えられます。

理工学研究科前期課程

●概要

理学及び工学に関する高度の理論と応用についての知識、これらに関する研究能力を修得させるための教育を行っています。1学年の学生数は約90名、修学年限は2年です。専攻は「電子工学」、「機械工学」、「航空宇宙工学」、「物質工学」、「情報数理」、「境界科学」及び「地球環境科学」の7専攻です。

●学位

独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施する、論文の審査と試験に合格すると、修士(理学又は工学)の学位が授与されます。

●受験資格

防衛省各機関の長が推薦した者だけに受験資格が与えられます。推薦は幹部自衛官、または自衛官以外の隊員で、防衛大学校を卒業した者、学校教育法による大学を卒業した者、または文部科学大臣がこれらと同等以上の学力があると認めた者のうちから行われます。

理工学研究科後期課程

●概要

装備等の開発能力を有する人材を育成するため、専門的かつ高度な研究能力およびその基礎となる学識を修得させるための教育を行います。1学年の学生数は約20名、修学年限は3年です。専攻は「電子情報工学系」、「装備・基盤工学系」及び「物質・基礎科学系」の3専攻です。

●学位

独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施する、論文の審査と試験に合格すると、博士(理学又は工学)の学位が授与されます。

●受験資格

防衛省各機関の長が推薦した者だけに受験資格が与えられます。推薦は幹部自衛官、または自衛官以外の隊員で、防衛大学校理工学研究科前期課程又は防衛大学校総合安全保障研究科前期課程を卒業した者及び卒業見込みの者、修士の学位を有する者及び取得見込みの者、又は防衛大学校長が修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者のうちから行われます。

総合安全保障研究科前期課程

●概要

社会学の専門的学識に裏付けられた安全保障に関する幅広い視野と高度の実践的問題解決能力を養うための教育を行っています。1学年の学生数は約20名、修業年限は2年です。専攻は総合安全保障の1専攻で、この専攻の中に「国際安全保障コース」、「戦略科学コース」及び「安全保障法コース」の3つの履修コースを設けています。

●学位

独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施する、論文の審査と試験に合格すると、修士(安全保障学)の学位が授与されます。

●受験資格

防衛省各機関の長が推薦した者だけに受験資格が与えられます。推薦は幹部自衛官、または自衛官以外の隊員で、防衛大学校を卒業した者、学校教育法による大学を卒業した者、または文部科学大臣がこれらと同等以上の学力があると認めた者のうちから行われます。

総合安全保障研究科後期課程

●概要

安全保障研究の一大拠点として、高度化・多様化した安全保障・戦略問題の最新の研究成果を踏まえ、安全保障の広い領域にわたる高度の専門的学識と実務的能力を持つ人材を養成します。1学年の学生数は約7名、修業年限は3年です。専攻は、総合安全保障の1専攻です。

●学位

独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施する、論文の審査と試験に合格すると、博士(安全保障学)の学位が授与されます。

●受験資格

防衛省各機関の長が推薦した者だけに受験資格が与えられます。推薦は幹部自衛官、または自衛官以外の隊員で、防衛大学校理工学研究科前期課程又は防衛大学校総合安全保障研究科前期課程を卒業した者及び卒業見込みの者、修士の学位を有する者及び取得見込みの者、又は防衛大学校長が修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者のうちから行われます。

理工学研究科学生による
実験・演習



ドップラーレーダーによる気象観測



ロケットモーターの燃焼実験



総合安全保障研究科学生による研究論文の発表

受 験 生 の た め

Q1 ■なぜ「大学」でなく「大学校」なの？

A1.防衛大学校は、文部科学省所管の学校ではなく、「将来、陸上・海上・航空の各自衛隊の幹部自衛官となるべき者を養成するため」に防衛省設置法によって設立された、防衛省所管の学校です。国の予算で設立された学校であっても、文部科学省所管でないために「大学校」と呼ばれています。

防衛大学校の教育内容は文部科学省の定めた大学設置基準に準拠した教育を行っています。卒業生には、(独)大学評価・学位授与機構による外部審査を受けた後に学位(学士)が授与されます。

Q2 ■大学院はあるの？

A2.本校には、大学院に相当する「研究科」が設置されており、卒業後、幹部自衛官として数年間勤務した後、希望によって研究科に進む道もあります。修業年限は2年間で定員は1学年につき理工学研究科前期課程が90名で、総合安全保障研究科前期課程が20名となっています。卒業時、大学評価・学位授与機構の論文審査と試験に合格すると、「修士」の学位が授与されます。

平成13年度からは理工学研究科後期課程が開設され、また、平成21年度からは総合安全保障研究科後期課程も開設され、「博士」の学位取得を目指しています。研究科は自衛隊の任務遂行に必要な高度な知識と研究能力修得のための教育を目的としており、受験は部隊勤務を経て、防衛省各機関の長の推薦を受けることが条件となります。なお、入学金及び授業料については本科同様無料となっています。

Q3 ■授業料がかからないって本当？

A3.防衛大学校学生は自衛隊員(特別職国家公務員)であり、学業、訓練に専念することが仕事です。このため入学金や授業料がかからないばかりか、毎月学生手当として給与が支給されます。したがって、一般大学とは違い、自分の都合だけで授業や訓練を休んだりすることはできません。

Q4 ■学生手当はいくらもらえる？

A4.防衛大学校学生には毎月103,135円(平成24年4月現在)が支給されます。このほかに毎年2回(6月、12月)の期末手当(いわゆるボーナス、年約288,272円)も支給されます。支給される学生手当からは、共済組合掛金、団体保険掛け金等が控除され、実際の受取額は約85,000円になります。

学生手当は、主として学業のために使用することが望ましく、具体的には勉学、校友会(クラブ)活動、日常経費に使用し、余分の金銭は貯金して必要な際に備えるよう指導しています。

Q5 ■体力に自信がないけれど大丈夫？

A5.幹部自衛官には高いレベルの体力が必要です。学生は体育、訓練及び校友会活動を通じて強靱な体力を育成しなければなりません。体力については各学年ごとに目標値が設定されており、目標に到達しない学生については、科学的かつ合理的な体力向上のためのプログラムが組みられています。

Q6 ■校友会活動ってなに？

A6.校友会活動は、いわゆるクラブ活動のことで「教育・訓練」及び「規律ある団体生活(学生舎生活)」と並んで本校教育方針の三本柱として位置づけられるものです。よって、原則として全員が運動部(吹奏楽部、儀仗隊を含む)に加入するとともに、文化部活動も活発に行われています。これらの活動に必要な施設・器材も逐次整備・拡充が図られています。

Q7 ■自宅通学はできるの？

A7.学生は全員入校と同時に学生舎で生活することが義務づけられ、自宅から通うことはできません。

学生舎には自習室、寝室、集会室、シャワー室、洗濯室等の設備があります。自習室と寝室は8人部屋(一部4人部屋)となっており、第1学年から第4学年までの学生が同じ部屋で一緒に生活します。(4月から8月までは、第4学年2名と第1学年6名の部屋分けとなります。)

年間の休暇には、夏休み(約3週間)、冬休み(約1週間)、春休み(約1週間)があり、この間は帰省や旅行等もできますが、校友会活動の合宿などに充てられることもあります。

Q8 ■外出や外泊はできるの？

A8.土曜日は8:00~23:20まで、日曜日と祝日は8:00~22:20まで外出ができます。

第2学年以上は、週末に外泊できますが、回数(基準:第2学年は年間11回、第3学年は年間16回、第4学年は年間21回)に制限があります。第1学年は特別の理由(校友会活動等)により必要と認められたとき以外は外泊はできません。また、第1学年は外出時に制服を着用することが義務づけられています。

Q9 ■アルバイトはできるの？

A9.防衛大学校の学生は国家公務員であることから、アルバイトはできません。

Q10 ■学校行事にはどんなものがあるの？

A10.入校式、卒業式、開校記念祭などの3大行事のほか、各種競技会、観閲式、文化部発表会、卒業ダンスパーティー、産土祭(誕生会)などの行事があります。



開校記念祭(模擬店)

Q11 ■要員配分ってなんのこと？

A11.卒業後、陸上・海上・航空の各自衛隊のうち、どの自衛官となるのかを決めることを要員配分といい、第2学年進級時に、本人の希望や適性、成績などを踏まえた上で決定します。

陸上・海上・航空の要員配分の割合は概ね2:1:1で、その際パイロットになるためには、身体検査や適性検査があり、視力が両眼とも裸眼で0.2以上などの条件が設定されています。

決定後は、それぞれの要員別の専門教育や訓練を受けることになります。

Q12 ■転職状況を教えて？

A12.防衛大学校は「将来の幹部自衛官となるべき者」を養成する学校であり、在校中に転職活動することは禁じられています。

本校を卒業すると、陸上・海上・航空の各自衛隊の自衛官(曹長)に任官し、幹部候補生として、それぞれの幹部候補生学校(陸上:福岡県久留米市、海上:広島県江田島市、航空:奈良県奈良市)に入校し教育を受けます。その後部隊又は海上勤務を経て、防衛大学校卒業後約1年で初級幹部自衛官である3尉に任命されます。

の防大相談室

Q13 ■ 留学制度はあるの？

A13.本校には、3週間から1年間程度の海外留学制度があります。留学先はアメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダ、韓国、シンガポール、タイ、中国、ドイツ、フランス等の士官学校等で、成績や語学力を考慮した上で毎年約40名が選抜され派遣されます。

本校においても諸外国との友好・親善を促進することを目的として、アメリカ、インドネシア、オーストラリア、カナダ、韓国、カンボジア、シンガポール、タイ、東ティモール、フランス、フィリピン、ベトナム、モンゴル等からの留学生等を受け入れています。



留学生に対して行われる日本語教育

Q14 ■ 訓練ってどのくらいするの？

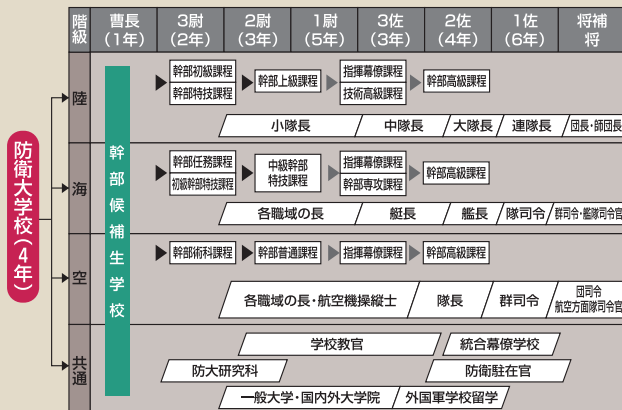
A14.訓練には主に第1学年時に履修する共通訓練と、第2学年から陸上・海上・航空の各要員別に履修する専門訓練があります。週1回2時間の訓練の他、春(約1週間)、夏(約1か月)、秋(約1週間)、冬(約1週間)に集中的に行われる定期訓練があります。

Q15 ■ キャリアプラン(CareerPlan)はどうなっているの？

A15.防衛大学校卒業後は、陸・海・空曹長に任命され、幹部候補生学校(陸上…福岡県久留米市、海上…広島県江田島市、航空…奈良県奈良市)における教育を受け、その後部隊又は海上勤務などを経て、防衛大学校卒業後約1年で幹部自衛官(3等陸・海・空尉)に任命されます。

その後、部隊又は海上勤務をはじめ、各種課程教育、技術教育、および語学教育を履修するほか、本校理工学研究科および総合安全保障研究科における教育、国内外大学院の修士課程・博士課程への入学や、一般大学での研修、外国の軍学校に留学する機会もあります。

こうして幹部としての道を進み、さらに自己の能力と努力に経験と研修を重ね、自衛隊を運用することなど、国の防衛の重任を果たす重要な地位につくことができます。



()は次の階級へ昇任するのに必要な最低の年数

Q16 ■ 定期試験はいつ？

A16.学期末(例年前期が9月末、後期が2月末)にそれぞれ1週間行われます。試験の結果は、秀・優・良・可・不可の5段階で評価され、第1学年では35単位以上取得できないと留年となり、同じ理由で2回留年すると退校になります。

Q17 ■ 学科は選べるの？

A17.第2学年進級時に学科分けが行われます。学科は全部で14学科(人社系3学科、理工系11学科)あり、これは本人の希望及び成績に応じて決定されます。

理工系の学科の場合、そのほとんどが物理系の学科であるため、物理が大変重要な科目となります。高校時代に少なくとも物理基礎(物理I)を履修しておくことが必要です。

理工学専攻は、学科に進む前にまず専門基礎である数学、物理、化学が必修科目であり、人文・社会科学専攻においても教養教育として数学、物理及び化学は必修科目となります。

Q18 ■ 学生隊ってなに？

A18.防衛大学校の学生は、全員が入校と同時に学生隊に属し、学生舎において4年間の共同生活を送ることになります。

学生隊とは、学生の共同生活を円滑にし、自律心を養うため全学生により構成される学生組織です。学生は決められた日課に従い、規律正しい生活を送ります。また、各学年ごとに用務が振り分けられており、一例として学生舎の清掃(朝・夕)、食事当番などがあります。最初は時間に追われて不自由を感じるかもしれませんが、そうした生活をする中で知らず知らず幹部自衛官としての資質が養われていきます。

本校の標語(学校長教育方針)には「模倣実践の1学年」というものがあり、これは先輩を見習い、言われたことはとにかくやってみようという意味があります。



観閲式における学生隊の行進

Q19 ■ 私服は許される？

A19.学生は定められた制服等を着用しなければなりません。外出を許可され、または休暇を与えられて校外において私用に行動する場合などには、私服を着用できます。ただし、第1学年は外出時においても制服を着用することが義務付けられています。

また、勉学及び日用品(携帯電話、ヘアードライヤー、電気カミソリ、パソコン等)以外の電気器具、私服、自転車等の私有物は校内において所持できません。車両(自動車やバイク)の購入及び保有もできません。

Q20 ■ 運転免許証はとれる？

A20.運転免許証の取得を希望する学生は、指導教官の許可を受け、外出時または休暇時を利用して、民間の自動車学校等に通うことができます。車両の運転についても、事前に届け出ることにより、外出時または休暇時に限り許可されます。(自動二輪は除く。)

Q21 ■ 学生舎でお酒を飲むではダメ？

A21.校内においては、酒類を所持し、または飲酒することはできませんが、学校長が主催する会合等へ参加する場合等に限って飲酒することができます。

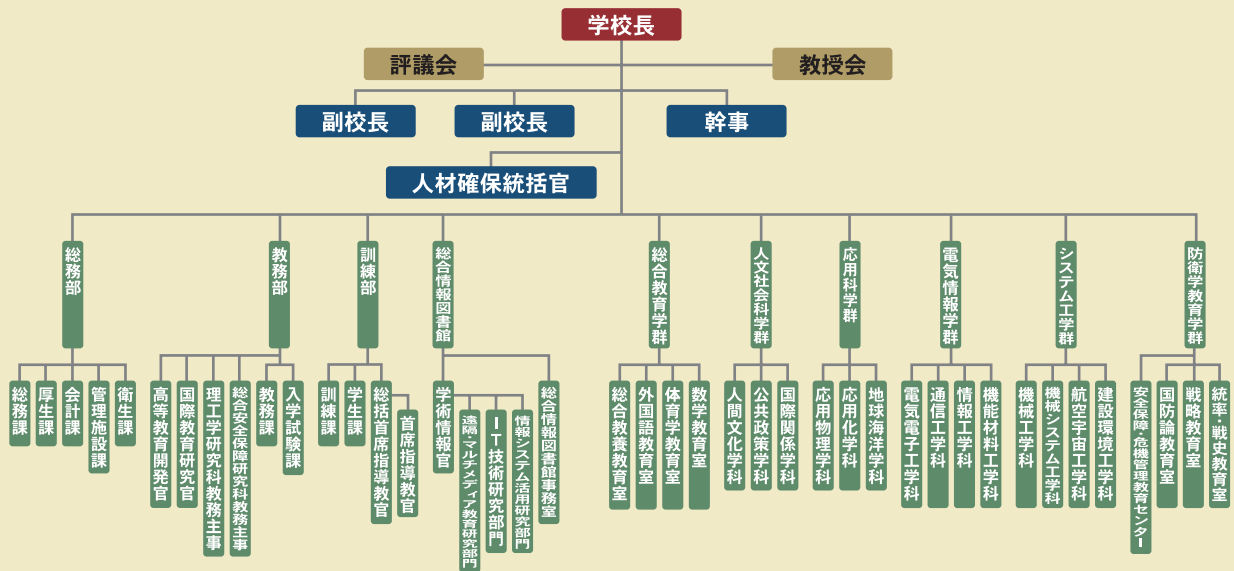
また、第1学年は成人であっても、原則として飲酒することはできません。

沿革

昭和27年8月 保安庁の付属機関として保安大学校を設置
 昭和28年4月 横須賀市久里浜の校舎で開校 本科第1期(理工学専攻)学生入校
 昭和29年7月 防衛庁設置法の施行に伴い、校名を防衛大学校と改称
 昭和30年3月 横須賀市小原台の新校舎に移転
 昭和32年3月 本科第1期学生卒業
 昭和33年4月 タイ王国留学生1名を受け入れ、外国人に対する教育訓練がスタート
 昭和37年4月 理工学研究科第1期学生入校
 昭和39年3月 理工学研究科第1期学生卒業
 昭和49年4月 本科人文・社会科学専攻開設
 平成元年4月 本科教育課程の専門区分改正(理工学専攻の6専門区分を14学科に、人文・社会科学専攻の2専門区分を2学科に)
 平成2年4月 留学生に対し、日本語教育がスタート
 平成3年9月 本科推薦採用試験制度開始
 平成4年3月 卒業生に学位授与機構(文部省)から学位授与開始

平成4年4月 本科女子第1期学生入校
 平成8年3月 本科女子第1期学生卒業
 平成8年4月 理工学研究科教育課程の改革(専門・系列を専攻・大講座に)
 平成9年4月 総合安全保障研究科第1期学生入校
 平成11年3月 総合安全保障研究科第1期学生卒業
 平成12年4月 本科の組織改編(6学群、14学科(理工系11、人社系3)、7教育室に)
 平成13年4月 理工学研究科後期課程(博士課程)第1期学生入校
 平成16年3月 理工学研究科後期課程(博士課程)第1期学生卒業
 平成17年4月 副校長を増設 学術情報センターを新設
 防衛学教育学群に安全保障危機管理教育センターを新設
 平成21年4月 総合安全保障研究科後期課程(博士課程)第1期学生入校
 図書館と学術情報センターを統合し、総合情報図書館を新設
 平成24年9月 本科総合選抜採用試験制度開始
 平成25年3月 本科一般採用試験(後期日程)制度開始

組織図



交通アクセス



- 京浜急行電鉄堀ノ内駅で浦賀行きに乗換え、「馬堀海岸駅」下車、京浜急行バス「防衛大学校行き」約7分、または徒歩で約25分
 「馬堀海岸駅」:京浜急行電鉄「品川駅」より快特(堀ノ内乗換え)利用の場合、約60分
- JR横須賀線「横須賀駅」下車、京浜急行バス「防衛大学校行き」約30分
 「横須賀駅」: JR横須賀線「東京駅」より約75分
- 横浜横須賀道路「馬堀海岸インター」降車、約5分

〒239-8686 神奈川県横須賀市走水1丁目10番20号
 TEL:046-841-3810(代表)

ホームページアドレス: <http://www.mod.go.jp/nda/>

■自衛隊地方協力本部一覧

地方協力本部	所在地	電話番号	ホームページアドレス
札幌	〒060-0004 札幌市中央区北4条西15丁目1	011-631-5472	http://www.mod.go.jp/pco/sapporo/
函館	〒042-0934 函館市広野町6-25	0138-53-6241	http://www.mod.go.jp/pco/hakodate/
旭川	〒070-0902 旭川市春光町国有無番地	0166-51-6055	http://www.mod.go.jp/pco/asahikawa/
帯広	〒080-0024 帯広市西14条南14丁目4	0155-23-5882	http://www.mod.go.jp/pco/obihiro/
青森	〒030-0861 青森市長島1丁目3-5 青森第2地方合同庁舎2F	017-776-1594	http://www.mod.go.jp/pco/aomori/
岩手	〒020-0021 盛岡市中央通3丁目4-11	019-623-3236	http://www.mod.go.jp/pco/iwate/
宮城	〒983-0842 仙台市宮城野区五輪1丁目3-15 仙台第3合同庁舎1F	022-295-2612	http://www.mod.go.jp/pco/miyagi/
秋田	〒010-0951 秋田市山王4丁目3-34	018-823-5404	http://www.mod.go.jp/pco/akita/
山形	〒990-0041 山形市緑町1-5-48 山形地方合同庁舎	023-622-0712	http://www.mod.go.jp/pco/yamagata/
福島	〒960-8162 福島市南町86	024-546-1920	http://www.mod.go.jp/pco/fukushima/
茨城	〒310-0011 水戸市三の丸3丁目11-9	029-231-3315	http://www.mod.go.jp/pco/ibaraki/
栃木	〒320-0043 宇都宮市桜5丁目1-13 宇都宮地方合同庁舎2F	028-634-3385	http://www.mod.go.jp/pco/tochigi/
群馬	〒371-0805 前橋市南町3丁目64-12	027-221-4471	http://www.mod.go.jp/pco/gunma/
埼玉	〒330-0061 さいたま市浦和区常盤4丁目11-15 浦和地方合同庁舎3F	048-831-6043	http://www.mod.go.jp/pco/saitama/
千葉	〒263-0021 千葉市稲毛区轟町1丁目1-17	043-251-7151	http://www.mod.go.jp/pco/chiba/
東京	〒162-0845 新宿区市谷本村町5-2	03-3260-0543	http://www.mod.go.jp/pco/tokyo/
神奈川	〒231-0023 横浜市中区山下町253-2	045-662-9429	http://www.mod.go.jp/pco/kanagawa/
新潟	〒951-8035 新潟市中央区船場町2丁目3423	025-229-3232	http://www.mod.go.jp/pco/niigata/
山梨	〒400-0031 甲府市丸の内1丁目1番18号 甲府合同庁舎2F	055-253-1591	http://www.mod.go.jp/pco/yamanashi/
長野	〒380-0846 長野市旭町1108 長野第2合同庁舎1F	026-233-2108	http://www.mod.go.jp/pco/nagano/
静岡	〒420-0821 静岡市葵区柚木366	054-261-3151	http://www.mod.go.jp/pco/sizuoka/
富山	〒930-0856 富山市牛島新町6-24	076-441-3271	http://www.mod.go.jp/pco/toyama/
石川	〒921-8506 金沢市新神田4丁目3-10 金沢新神田合同庁舎3F	076-291-6250	http://www.mod.go.jp/pco/ishikawa/
福井	〒910-0017 福井市文京1丁目17-24	0776-23-1910	http://www.mod.go.jp/pco/fukui/
岐阜	〒502-0817 岐阜市長良福光2675-3	058-232-3127	http://www.mod.go.jp/pco/gifu/
愛知	〒454-0003 名古屋市中川区松重町3-41	052-331-6266	http://www.mod.go.jp/pco/aichi/
三重	〒514-0003 津市桜橋1丁目91	059-228-4722	http://www.mod.go.jp/pco/mie/
滋賀	〒520-0044 大津市京町3-1-1 大津びわ湖合同庁舎5F	077-524-6446	http://www.mod.go.jp/pco/shiga/
京都	〒604-0043 京都市中京区御池通西洞院西入ル石橋町438-1 京都地方合同庁舎2・3F	075-211-3471	http://www.mod.go.jp/pco/kyoto/
大阪	〒540-0008 大阪府中央区大手前4-1-67 大阪合同庁舎第2号館3F	06-6942-0543	http://www.mod.go.jp/pco/osaka/
兵庫	〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-4-3 神戸防災合同庁舎4F	078-261-8600	http://www.mod.go.jp/pco/hyogo/
奈良	〒630-8301 奈良市高畑町552 奈良第2地方合同庁舎1F	0742-23-7001	http://www.mod.go.jp/pco/nara/
和歌山	〒640-8287 和歌山市築港1丁目14-6	073-422-5116	http://www.mod.go.jp/pco/wakayama/
鳥取	〒680-0845 鳥取市富安2丁目89-4 鳥取第1地方合同庁舎6F	0857-23-2251	http://www.mod.go.jp/pco/tottori/
島根	〒690-0841 松江市向島町134-10 松江地方合同庁舎4F	0852-21-0015	http://www.mod.go.jp/pco/shimane/
岡山	〒700-8517 岡山市北区下石井1丁目4-1 岡山第2合同庁舎2F	086-226-0361	http://www.mod.go.jp/pco/okayama/
広島	〒730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 広島合同庁舎4号館6F	082-221-2957	http://www.mod.go.jp/pco/hiroshima/
山口	〒753-0092 山口市八幡馬場814	083-922-2325	http://www.mod.go.jp/pco/yamaguchi/
徳島	〒770-0941 徳島市万代町3-5 徳島第2地方合同庁舎	088-623-2220	http://www.mod.go.jp/pco/tokushima/
香川	〒760-0062 高松市塩上町3丁目11-5	087-831-0231	http://www.mod.go.jp/pco/kagawa/
愛媛	〒790-0003 松山市三番町8丁目352-1	089-941-8381	http://www.mod.go.jp/pco/ehime/
高知	〒780-0061 高知市栄田町2-2-10 高知よさこい咲都合同庁舎8F	088-822-6128	http://www.mod.go.jp/pco/kochi/
福岡	〒812-0878 福岡市博多区竹丘町1丁目12番	092-584-1881	http://www.mod.go.jp/pco/fukuoka/
佐賀	〒840-0047 佐賀市与賀町2-18	0952-24-2291	http://www.mod.go.jp/pco/saga/
長崎	〒850-0862 長崎市出島町2-25 防衛省合同庁舎2F	095-826-8844	http://www.mod.go.jp/pco/nagasaki/
大分	〒870-0016 大分市新川町2-1-36 大分合同庁舎5F	097-536-6271	http://www.mod.go.jp/pco/oita/
熊本	〒862-0971 熊本市中央区大江4丁目2-21	096-366-1271	http://www.mod.go.jp/pco/kumamoto/
宮崎	〒880-0901 宮崎市東大淀2丁目1-39	0985-53-2643	http://www.mod.go.jp/pco/miyazaki/
鹿児島	〒890-8541 鹿児島市東郡元町4-1 鹿児島第2地方合同庁舎1F	099-253-8920	http://www.mod.go.jp/pco/kagoshima/
沖縄	〒900-0016 那覇市前島3丁目24-3-1	098-866-5457	http://www.mod.go.jp/pco/okinawa/

